



横浜国立大学

YNU

キャリアデザインファイル

2010-2013

学籍番号	
氏名	

<目指してほしい人材像とは>

1. しっかりとした教育を受け、社会において中核的人材になる真の実力と人間性を得る。
2. 科学的探究心を尊重し、チャレンジ精神に基づく研究の場を通して、深い知識と洞察力を獲得する。
3. 友人達と共に切磋琢磨と協調を繰り返しつつ自らを見出し、社会や自然との関係も見出す。
4. 沢山の留学生らと共に国際性溢れる教育を受けて、世界に発信・飛躍を目指す。
5. 大学院においてさらに高度の教育を受け、高度専門職業人や研究者として社会に貢献する。

我が国文明開化の先導地・横浜で育った本学は、実践的な生きた学問を通して、社会に開かれ、国際性とチャレンジ精神を重視する、自由な精神と機動力に溢れる大学です。

自然に恵まれた常盤台キャンパスで学問を学び友と語りつつ、柔軟な発想と課題探究解決能力をしっかりと身につけ、社会の中心的人材となって人類社会に貢献することで自己実現を図ろうとする人を、本学は求めています。

「キャリアデザイン」とは、皆さんが自分の将来の生き方（キャリア）を考え、そのために何をすればいいのかを定めて実行する（デザイン）ことを指しています。将来を見据えた意味のある大学生活を実現する手助けになれば、と横浜国立大学ではキャリアデザインファイルを用意しました。このファイルには、横浜国大生としての皆さんの成長を応援するために、キャリアデザインへのヒントがまとめられています。このファイルを有効に活用して、大学生活を有意義に過ごして下さることを願っています

YNUキャリアデザインファイルの使い方

キャリアデザインファイルの構成と記入方法

このファイルには、キャリアデザインシート編と資料編の二つの部分があります。キャリアデザインシートは、皆さんに書き込んでもらうためのものです。記入のためのヒントを、少しだけシートの一部に示しました。しかし、それにこだわる必要はありません。自分の役に立つよう考えて記入して下さい。大切なことは、自分で考えて記入することだ、と考えて下さい。

キャリアデザインシートの記入で一番大事なこと

キャリアデザインシートの使用にあたって、大切なことは自分で考えて記入することだ、と上に記しました。もう少し付け加えておきましょう。一番大切なことは、自分と正直に向き合って記すことです。

キャリアデザインファイルは自分だけのもの

キャリアデザインファイルは大学関係者に見せるために作るものではありません。自分を確認し、将来を眺めるために作るものです。

追加用紙の記入方法（用紙に記入するのではなく、電子ファイルで管理することも可能です）

入学時に配布したキャリアデザインファイルには、大学3年次終了までに必要となる、最小量の用紙が含まれています。もっと用紙が必要な人、自分なりの項目を加えて使いたい人は大学のホームページにアクセスして下さい。下記のURLにダウンロードできる形でキャリアデザインシートが準備してあります（http://www.ynu.ac.jp/student/career/car_1.html）。

ダウンロード用のファイルはリッチテキストフォーマットという形式で作られています。様々なワープロソフトで（word、一太郎、open officeなど）で読み込めば、印刷もできますし、自分専用のファイルとしても使用できます。

キャリアデザインシートに記入する時期

キャリアデザインシートには**0**入学前(高校時代)の自分を確認しておこう、から**8**アクションプラン、まで9つの項目があります。記入する時期を表1（次ページ）のように想定して作られています。キャリアデザインシートの右上の部分にも示してあります。

表1 キャリアデザインシート記入時期

	入学前	入学時	1年生 10月	1年 修了時	2年 修了時	3年 修了時
0 入学前（高校時代）の自分を 確認しておこう	◎					
1 入学時の自分を確認しておこう		◎				
2 入学してからの半年を振り返っ てみよう			◎			
3 この一年を振り返ってみよう				◎	◎	◎
4 まわりとの関係に目を向けてみ よう				◎	◎	◎
5 将来に向けて何を考えたらう か				◎	◎	◎
6 大学時代の成果をまとめておこ う				◎	◎	◎
7 自分の能力を開発するためにど んな努力をしたか				◎	◎	◎
8 アクションプラン				◎	◎	◎

キャリアデザインシートの理解のために

キャリアデザインシートが何を考えて構成されているのかを43頁に記しました。キャリアデザインシートを有効に活用するために、意図の理解が役に立つかもしれません。

進路とYNUキャリアデザインファイル

大学での4年間の先には、大学院へ進学するのか、あるいは就職するのか二つの進路が待っています。キャリアデザインの中で、進路決定は最も重要な事項の一つです。

大学院への進学には、自分が何を目指してより高度な学問の修得を志すのかを明確にしておくことが、進学を決めるためにも、大学院での学習を充実させるためにも欠かせません。YNUキャリアデザインファイルは、このために多いに役立つ仕組みになっています。

もう一つの進路である就職にとっても、「自律した学生の採用」を企業が希望する今日、このファイルは就職活動の一つの準備といえる側面を持っています。就職とYNUキャリアデザインファイルの関係について少し詳しく44頁に記しましたから、興味のある人は読んで下さい。

目 次

YNUキャリアデザインファイルの使い方	3
入学者の皆さんへ	6

I. キャリアデザインシート編

I.0	入学前（高校時代）の自分を確認しておこう	10
I.1	入学時の自分を確認しておこう	11
I.2	入学してからの半年を振り返ってみよう	12
I.3	この一年を振り返ってみよう	14
I.4	まわりとの関係に目を向けてみよう	20
I.5	将来に向けて何を考えただろうか	26
I.6	大学時代の成果をまとめておこう	32
I.7	自分の能力を開発するためにどんな努力をしたか	36
I.8	アクションプラン	38
I.9	YNUキャリアデザインファイルの仕組み・考え方について	43
I.10	就職とYNUキャリアデザインファイル	44

II. 資 料 編

II.1	キャリアサポートシステム	47
II.2	Webサイト	48
II.3	キャリア教育科目	49
II.4	インターンシップ	51
II.5	キャリア教育書籍について	53
II.6	キャリア支援関連行事日程（平成21年度例）	55
II.7	キャリア教育関連行事日程（平成22年度予定）	56
II.8	英語学習相談室へようこそ	57
II.9	図書館の活用	58
II.10	キャリア教育キャンパス案内	59

III. 私たちのキャリアデザイン

61

入学者の皆さんへ

有意義な大学生活（成長が財産となる4年間を過ごそう）

入学したばかりの皆さんは、大学生活を如何に有意義に過ごそうか考えているのではないのでしょうか。勉強に熱心に取り組みたいと考えている人もいれば、部活・サークル中心の生活を考えている人、アルバイトに没頭したいと考えている人もいるかもしれません。

入学したばかりでは4年間もあるのだからと時間がたっぷりあるように思えるかもしれませんが。しかしあっという間に時間は過ぎてしまいます。卒業後に就職を考えている人にとっては、3年生から就職活動がはじまるわけですから、丸々4年間を学生らしく過ごすことは難しいでしょう。大学院進学希望者も同じです。高度な学問の修得には、基礎となる力をつける時期である学部時代の過ごし方が、大学院での充実度を左右するといっても言いすぎではないでしょう。

そこで皆さんに「どうやって大学生活を充実させたいのか」「なぜそのような大学生活を送りたいのか」を考えた上で、大学生活を送ってもらいたいのです。それが卒業する時に自分自身が成長したと自覚できるようになると考えているのです。これを考えることが社会の中で生きていくうえで大きな財産となるのです。

大学での学び（答えを見つけるプロセスを楽しもう）

ところで、大学で学ぶということは高校までの学びとは違ったものです。高校までは基本的に学校が与えることを「覚える」「理解する」ことが中心でした。高校で成績がよかったのはあくまでも「覚える」「理解する」ことが人より優れていたからに過ぎません。では大学での学びというのはどういうものなのかというと、答えが必ず一つとは限りません。さまざまな答えを導き出すためにどのようなプロセスをたどって答えにたどり着くか、そのプロセスを楽しみながら学ぶことが大学での学びです。もちろん「覚える」「理解する」ことが大学で全く求められないわけではありません。大学での学びにたどりつくための段取りとして最低限の基礎知識は求められます。大学での学びはその基礎知識を踏まえて、さらに高度な学びを求めているのです。

社会に出るとのこと（社会は答えのない判断だらけ）

社会に出るとのこととは、答えのない判断を常に求められる立場になるということでもあります。その答えを出す時に、どのような情報を元にどうやって判断をしたのかということは常に意識せざるを得ないのです。社会に出ればマニュアルはないのです。大学での学びはこのように答えのない判断をする準備になっているのです。

自分でつくるマニュアル

これからみなさんにやってもらうキャリアデザインにもマニュアルはありません。そのマニュアルにあたるものをつくるのは自分自身です。

例えばおしゃれを極める時、ファッション誌を鵜呑みにしてマニュアルどおりにするわけではないですね。自分にあったファッションは何なのか、どういう場面でおしゃれをするのかといったことを考えておしゃれを極めようと思えますね。

自分のキャリアもマニュアルどおりってつまらなくないですか。

何のために学ぶのか（自律的な学生を目指して）

みなさんにやってもらうキャリアデザインというのは、「何のために学ぶのか」「学んだことが自分にとってどういう意味があったのか」ということを振り返りつつ学ぶことで、自分の今後の人生を考える手がかりになるものです。ですから大学での勉強以外にも自分にとってどういう意味があるのかを考えることができるのです。

横浜国立大学のキャリアデザインは、消費者としての学生のためではなく、自律的な学生を目指す人のためにつくりました。

大学はレジャーランド？

消費者としての学生と自律的な学生についてもう少し説明しましょう。

大学の主役は誰だと思いますか。もちろん学生です。しかし、勉強もせず遊んでばかりの学生が主役なのではありません。今、大学に求められているのは、消費者としてレジャーランドの大学で過ごした学生ではありません。大学がレジャーランドであってもよかったのは過去の話であり、今ではそんなことはないのです。今、求められているのは自律的な学生なのです。

なぜ自律的な学生が求められるのか

大学は現在大きな2つの影響を受けています。一つの影響は18歳人口の減少です。それによって入学者数の減少が予想されました。そのため学生は大学にとって大事なお客様になったのです。お客様を満足させることが各大学で考えられるようになったのです。その場合、お客様である学生にとって大学は、楽に単位を取って楽に卒業できるところであればよかったです。それはまさに消費者としての学生です。もうひとつの影響は近年の経済変動に伴う就職環境の変化です。それまで景気の変化に伴って多少の変化はありましたが、どこの大学をでればだいたいどのあたりの企業に就職できるということはほぼ見通しが立っていました。しかし近年の就職は、大学名で就職先が決まるのではなく、企業が求める学生だけが絞り込んで採用されるようになりました。就職が量から質に変化したということもできるでしょう。その時求められているのは、単に与えられたものをそつなくこなしていた学生ではなく、「学生時代何をやってきたか」「なぜそれをやっていたのか」を説明できる学生になったのです。いわば自律的に学び主体的に行動できる学生が求められるようになったのです。

21世紀は知識が社会のあらゆる側面や領域において、かつてないほど重要な価値を占める社会、知識基盤社会であると考えられています。知識基盤社会では、指示を待って動く「過程実現型」の人ではなく、「個性的で創造的」な「目標設定型」の人が求められています。自律的な学生は「目標設定型」の人でもあるのです。

自律的な学生になりませんか

自律的な学生になりませんか。難しいことではありません。その手助けをするのがこのキャリアデザインファイルなのです。これを使って自分に向き合うことで、知らないうちに自分自身が自律的な学生になれるように設計しています。



I



キャリアデザインシート編

入学前(高校時代)の自分を確認しておこう

1

将来についてどんなことを考えていたのだろうか。

2

横浜国立大学はどんな大学だと思っていたのだろうか。

3

高等学校時代に最も力を入れて取り組んだことはなんだっただろう。

入学時の自分を確認しておこう

1

大学に入る前に得意だったこと、不得意だったことは何だろうか。

(すぐ下の欄の記述を参考に書いてみよう。)

学習課目、対人関係、自己表現力、分析力、決断力など様々な視点から考えてみよう。

2

なぜ横浜国大に来ようと思ったのだろうか。

3

とりたい授業、やりたいことは何だろうか。

なぜその授業をとりたいのだろうか、なぜそれをしてみたいのだろうか。

入学してからの半年を振り返ってみよう

1

この半年間で自分は
どう変わっただろう
か。

ものの見方が変わった、勉強の取り組み方が変わった、など受験生時代と比較して考えてはどうだろうか。

変わったきっかけは何だっただろうか。

2

入学前のイメージとは
違っていたところが
大学にあったら
うか。

なぜ大学は自分のイメージと違っていただろうか。

3

入学時に決めていた
取り組みの中に、実
行できなかったもの
はあるだろうか。

なぜ実行できなかったのだろうか、あるいは実行しなかったのだろうか。



この一年を振り返ってみよう

1

この一年間自分はど
う変わっただろうか。
(下の欄を参考に書いてみ
よう。)

行動力がついた、指導
力がついた、など自分
の強みとなった事柄や
協調性が増した、視野
が広がった、などでも
いいだろう。

変わったきっかけは何だっただろうか。

その変化は自分にとってどんな意味があるだろうか。

2

この一年間でどんな
能力が向上しただろ
うか。
(下の欄を参考に記して
みてはどうだろうか。)

問題発見・解決能力、
創造性、コミュニケー
ション能力、マネジメ
ント能力など自分を能
力という観点から評価
してはどうだろうか。

能力の内容。

何が向上をもたらしたのか。

3

できなかったことは
何だろうか。

身につけたい能力も含
めて記してはどうだろ
うか。

どうしたらできるようになるだろうか。



この一年を振り返ってみよう

1

この一年間自分はど
う変わっただろうか。

(下の欄を参考に書いてみ
よう。)

変わったきっかけは何だっただろうか。

その変化は自分にとってどんな意味があるだろうか。

行動力がついた、指導
力がついた、など自分
の強みとなった事柄や
協調性が増した、視野
が広がった、などでも
いいだろう。

2

この一年間でどんな
能力が向上しただろ
うか。

(下の欄を参考に記してみ
てはどうだろうか。)

問題発見・解決能力、
創造性、コミュニケー
ション能力、マネジメ
ント能力など自分を能
力という観点から評価
してはどうだろうか。

能力の内容。

何が向上をもたらしたのか。

3

できなかったことは
何だろうか。

身につけたい能力も含
めて記してはどうだろ
うか。

どうしたらできるようになるだろうか。



この一年を振り返ってみよう

1

この一年間自分はど
う変わっただろうか。
(下の欄を参考に書いてみ
よう。)

変わったきっかけは何だっただろうか。

その変化は自分にとってどんな意味があるだろうか。

行動力がついた、指導
力がついた、など自分
の強みとなった事柄や
協調性が増した、視野
が広がった、などでも
いいだろう。

2

この一年間でどんな
能力が向上しただろ
うか。
(下の欄を参考に記して
みてはどうだろうか。)

問題発見・解決能力、
創造性、コミュニケー
ション能力、マネジメ
ント能力など自分を能
力という観点から評価
してはどうだろうか。

能力の内容。

何が向上をもたらしたのか。

3

できなかったことは
何だろうか。

身につけたい能力も含
めて記してはどうだろ
うか。

どうしたらできるようになるだろうか。



まわりとの関係に目を向けてみよう

1

この一年間で、出会って良かったと思える人がいるだろうか。

その人と出会ったことで新たな価値観を知った、自分が変わった、自分の新たな一面を発見した等、いろいろなことが考えられるだろう。

その人とはどのような関係にあるか。

なぜ良かったと思えるのだろうか。
(上の欄の記述を参考にして書いてはどうか。)



まわりとの関係に目を向けてみよう

1

この一年間で、出会って良かったと思える人がいるだろうか。

その人と出会ったことで新たな価値観を知った、自分が変わった、自分の新たな一面を発見した等、いろいろなことが考えられるだろう。

その人とはどのような関係にあるか。

なぜ良かったと思えるのだろうか。
(上の欄の記述を参考にして書いてはどうか。)



まわりとの関係に目を向けてみよう

1

この一年間で、出会って良かったと思える人がいるだろうか。

その人と出会ったことで新たな価値観を知った、自分が変わった、自分の新たな一面を発見した等、いろいろなことが考えられるだろう。

その人とはどのような関係にあるか。

なぜ良かったと思えるのだろうか。
(上の欄の記述を参考にして書いてはどうか。)



将来に向けて何を考えただろうか

1

自分は卒業後の進路をどのように考えているのだろうか1)、2)。自分は社会とどのように関わりたいのだろうか3)。

(下の欄の1)、2)、3)を参考に記してみてもうか。)

そうなった自分は、社会にとってどのような価値を持つのだろうか。
(下の欄の4)を参考に記してみてもうか。)

- 1) 大学院に進学してより高度な学問を身につけることが自分に必要ではないだろうか、大学で学んだことを直ちに社会で実践してみたい、など卒業後の進路を考えただろうか。
- 2) 人から尊敬される人生、公正な人生、周囲の人々と調和する人生、など人生の価値基準を自分はどのように考えているのだろうか。
- 3) 自分のアイデアや提案が生きる仕事につきたい、仕事を通して社会に貢献したい、特別な知識やスキルを活かした専門家になりたい、組織の中で高い地位につきたい、チームで力を合わせて目標を達成していく仕事につきたい、長期的に安定している職業につきたい、高収入を得られる職業につきたい、スケジュールにしばられない仕事につきたい、仕事だけでなくボランティア活動などを通して社会福祉にも貢献したいなど、社会との関わりにはいろいろなものがあるのではないだろうか。
- 4) 社会に新しい価値を生み出す存在、物質的な豊かさをもたらす存在、精神的な豊かさをもたらす存在、文化の発展をもたらす存在、健全な家庭を築くことで社会の安定をもたらす存在、など社会にとって、様々な存在意義を考えることができるだろうか。

2

関心が生まれた、もしくは関心が深まった職業は何だったか。

その職業は社会にどのような役割をはたしていると思ったのだろうか。

なぜその職業に関心を持ったのだろうか、もしくは関心が深まったのだろうか。

その職業にはどんな能力が必要だろうか。



将来に向けて何を考えただろうか

1

自分は卒業後の進路をどのように考えているのだろうか1)、2)。自分は社会とどのように関わりたいのだろうか3)。

(下の欄の1)、2)、3)を参考に記してみてもうか。)

そうになった自分は、社会にとってどのような価値を持つのだろうか。
(下の欄の4)を参考に記してみてもうか。)

- 1) 大学院に進学してより高度な学問を身につけることが自分に必要ではないだろうか、大学で学んだことを直ちに社会で実践してみたい、など卒業後の進路を考えただろうか。
- 2) 人から尊敬される人生、公正な人生、周囲の人々と調和する人生、など人生の価値基準を自分はどのように考えているのだろうか。
- 3) 自分のアイデアや提案が生きる仕事につきたい、仕事を通して社会に貢献したい、特別な知識やスキルを活かした専門家になりたい、組織の中で高い地位につきたい、チームで力を合わせて目標を達成していく仕事につきたい、長期的に安定している職業につきたい、高収入を得られる職業につきたい、スケジュールにしばられない仕事につきたい、仕事だけでなくボランティア活動などを通して社会福祉にも貢献したいなど、社会との関わりにはいろいろなものがあるのではないだろうか。
- 4) 社会に新しい価値を生み出す存在、物質的な豊かさをもたらす存在、精神的な豊かさをもたらす存在、文化の発展をもたらす存在、健全な家庭を築くことで社会の安定をもたらす存在、など社会にとって、様々な存在意義を考えることができるだろうか。

2

関心が生まれた、もしくは関心が深まった職業は何だったか。

その職業は社会にどのような役割をはたしていると思ったのだろうか。

なぜその職業に関心を持ったのだろうか、もしくは関心が深まったのだろうか。

その職業にはどんな能力が必要だろうか。



将来に向けて何を考えただろうか

1

自分は卒業後の進路をどのように考えているのだろうか1)、2)。自分は社会とどのように関わりたいのだろうか3)。

(下の欄の1)、2)、3)を参考に記してみてもうか。)

そうになった自分は、社会にとってどのような価値を持つのだろうか。
(下の欄の4)を参考に記してみてもうか。)

- 1) 大学院に進学してより高度な学問を身につけることが自分に必要ではないだろうか、大学で学んだことを直ちに社会で実践してみたい、など卒業後の進路を考えただろうか。
- 2) 人から尊敬される人生、公正な人生、周囲の人々と調和する人生、など人生の価値基準を自分はどのように考えているのだろうか。
- 3) 自分のアイデアや提案が生きる仕事につきたい、仕事を通して社会に貢献したい、特別な知識やスキルを活かした専門家になりたい、組織の中で高い地位につきたい、チームで力を合わせて目標を達成していく仕事につきたい、長期的に安定している職業につきたい、高収入を得られる職業につきたい、スケジュールにしばられない仕事につきたい、仕事だけでなくボランティア活動などを通して社会福祉にも貢献したいなど、社会との関わりにはいろいろなものがあるのではないだろうか。
- 4) 社会に新しい価値を生み出す存在、物質的な豊かさをもたらす存在、精神的な豊かさをもたらす存在、文化の発展をもたらす存在、健全な家庭を築くことで社会の安定をもたらす存在、など社会にとって、様々な存在意義を考えることができるだろうか。

2

関心が生まれた、もしくは関心が深まった職業は何だったか。

その職業は社会にどのような役割をはたしていると思ったのだろうか。

なぜその職業に関心を持ったのだろうか、もしくは関心が深まったのだろうか。

その職業にはどんな能力が必要だろうか。



大学時代の成果をまとめておこう

6.1 大学での正課教育に関する項目

キャリア教育科目

科目名/履修年度	科目名/履修年度	科目名/履修年度	科目名/履修年度	科目名/履修年度	科目名/履修年度
メモ：					

自己理解（自分を知ること、自分を深めるの）に役立った科目

	科目名	科目名	科目名	科目名	科目名
1年次					
2年次					
3年次					
4年次					
メモ：					

進路を考えるのに役立った科目

	科目名	科目名	科目名	科目名	科目名
1年次					
2年次					
3年次					
4年次					
メモ：					

様々な知識や能力を総合して立案し、実行できる力（リーダーシップ力）が身に付いたと感じられる科目

科目名/履修年度	科目名/履修年度	科目名/履修年度	科目名/履修年度	科目名/履修年度	科目名/履修年度
メモ：					

他大学での履修科目

	科目名	科目名	科目名	科目名	科目名
1年次					
2年次					
3年次					
4年次					
メモ：					



6.2 正課外教育に関する項目

資格の取得・様々な講習会への参加の記録

入学前	
1年次	
2年次	
3年次	
4年次	

社会貢献・国際交流活動などの記録

入学前	
1年次	
2年次	
3年次	
4年次	

アルバイト等社会における活動の記録

入学前	
1年次	
2年次	
3年次	
4年次	

就職に関連する活動の記録

インターンシップの記録	
企業見学・公共施設の見学などの記録	
キャリアサポートの相談などの記録	
就職・進学先	



自分の能力を開発するためにどんな努力をしたか
7.1から7.5の項目についてまとめてみよう

7.1 基礎能力（基礎学力と専門学力）の向上に役立ったこと

事柄	時期	具体的な内容

7.2 問題発見・解決能力の向上に役立ったこと

事柄	時期	具体的な内容

7.3 創造性の向上に役立ったこと

事柄	時期	具体的な内容

7.4 コミュニケーション能力の向上に役立ったこと

事柄	時期	具体的な内容

7.5 マネジメント能力の向上に役立ったこと

事柄	時期	具体的な内容

基礎能力（基礎学力、専門学力）、問題発見・解決能力、創造性、コミュニケーション能力、マネジメント能力は、キャリア教育におけるキースキルです。これらのキースキルを自律的に習得することによって、本学の卒業者に期待されている「リーダーシップ力を有する人材」の基盤を構築することができます。



PDCAのすすめ：大学での4年間をどのように過ごすかは、その後の人生に大きく影響します。自分の将来を考える視点で大学時代をながめ、立案（Plan）-実行（Do）-点検（Check）-行動（Action）の形で学生生活を送ってはどうだろうか。

1年次を終えてのアクションプラン

課 題		対 応
3 一年間を振り返って、 について		
4 まわりとの関係、について		
5 将来に向けてについて		
6 大学時代の成果について		

2年次を終えてのアクションプラン

課 題		対 応
3 一年間を振り返って、 について		
4 まわりとの関係、について		
5 将来に向けてについて		
6 大学時代の成果について		



3年次を終えてのアクションプラン

	課 題	対 応
3 一年間を振り返って、 について		
4 まわりとの関係、について		
5 将来に向けてについて		
6 大学時代の成果について		

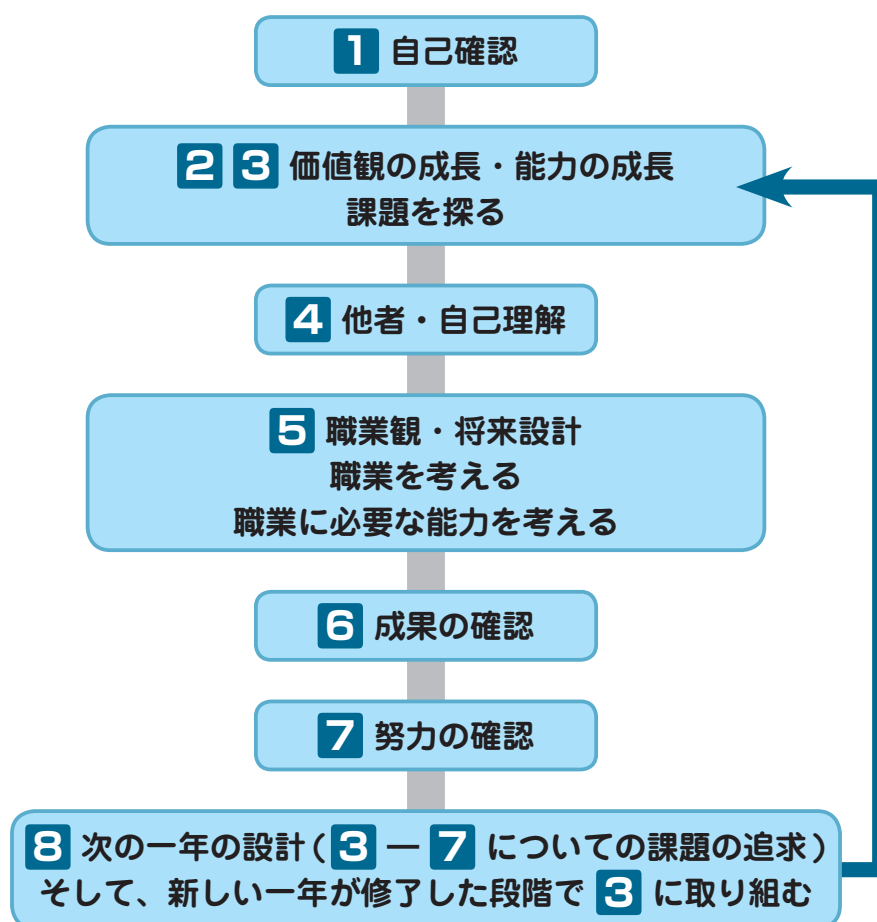


I.9 YNUキャリアデザインファイルの仕組み・考え方について

「キャリアデザイン」とは、皆さんが自分の将来の生き方（キャリア）を考え、そのために何をすればいいのかを定めて実行する（デザイン）ことを指しています。同じ人間がこの世に二人と存在しないのですから、「こうでなければならない」というキャリアデザインは存在しない、と言えるでしょう。ですから、YNUキャリアデザインファイルの目的は「何を目指して、何と取り組むべきか」を見つけ、それを発展させるきっかけを提供することです。

キャリアデザインシートは、まず大学における原点である入学時に、自分を確認してもらうことからスタートしています。

その後、いろいろな項目が続いていますが、概ね次のような意味をもつ流れとして構成されています。あなた個人にとって必要な視点が欠けているかもしれません。お渡ししたファイルに真剣に考えて記入するだけでなく、自分専用の仕組みに修正することも、実はキャリアデザインの重要な取り組みです。じっくり取り組んで下さい。



I.10 就職とYNUキャリアデザインファイル

このファイルは、皆さんが自律的な学生に育つ手助けとなるように設計したものです。大切にしたのは、自ら問題点を発見し、そしてそれを解決する手段を考えて定め、実行する、PDCA（立案（Plan）－実行（Do）－点検（Check）－行動（Action））のサイクルを実現してもらうことでした。皆さんの人生にとって大切な、就職について自律的に考える仕組みもこのファイルに含まれています。そして、このファイルは就職へのツールとしての機能を持っています。

企業の学生採用の方式が昔とは異なってきました。以前は、まず企業を訪問することが就職活動の第一歩でした。現在でも企業訪問は大切な活動の一つですが、多くの企業ではそれに先だって、「大学生活をどのよう過ごしたのか」、「何に取り組んだのか」、「それから何を得たのか」等の項目を含むことが多い、エントリーシートとよばれる書類…一種のレポート・作文と言えるかもしれません…の提出を求めるようになりました。

大学生として自らがどう過ごすのかどのように考えたのか、そして結果的にどう過ごしたのかが確認できる、YNUキャリアデザインファイルと取り組むことは、実は就職活動への確かな第一歩を築くことでもあるといえるでしょう。

（学生支援課が発行している「就職活動の手引き」もご参照下さい。）

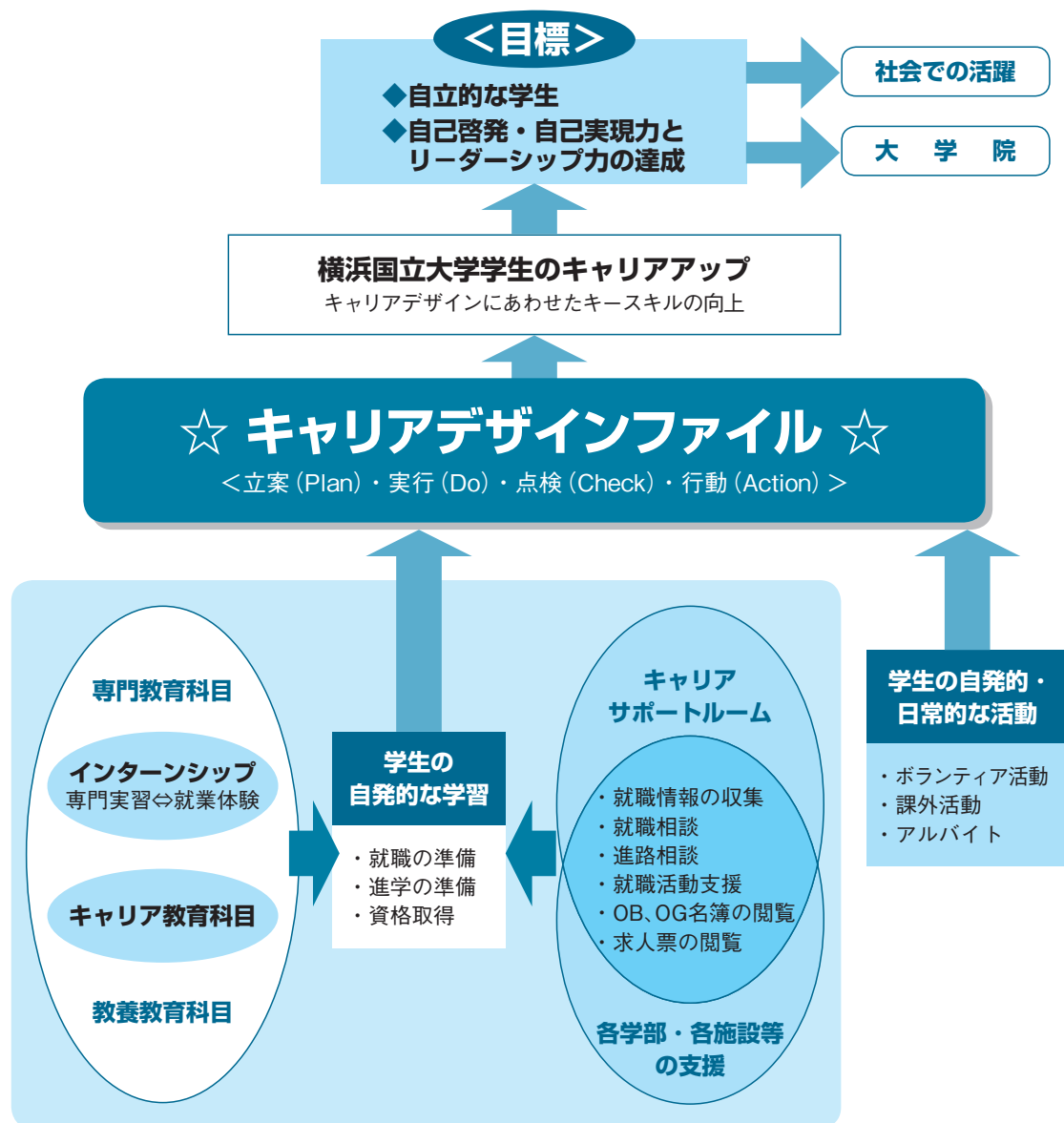


II



資料編

Ⅱ.1 キャリアサポートシステム



- キャリアサポートルーム** (<http://www.jmk.ynu.ac.jp/gakugai/gakumu/sinro/syu6.htm>)
 - ・キャリア・アドバイザー（本学OB・OG）による就職相談；毎週火・水・木曜日（13：30～16：30）
 - ・キャリア・サポーター（在学生）によるガイダンス
 - ・キャリア・サポーター（内定者）による就職相談
 - ・教員採用試験対策講座
（国大出身の先輩たちが、豊かな経験と現場で得た情報を生かした傾向と対策・相談）
 - ・ガイダンス、セミナー、講座等運営
- オフィスアワー**；各学部の履修案内及びシラバスを参照
- 附属図書館**；ホームページ (<http://www.lib.ynu.ac.jp>) 参照
- 情報基盤センター**；ホームページ (<http://www.ipc.ynu.ac.jp>) 参照

Ⅱ.2 Webサイト（各学部独自のキャリアデザインサポート）

大学全体としてとりくんでいるキャリアデザインサポートの仕組みに加えて、各学部では学部の特徴に合わせた独自のキャリアデザインサポートがおこなわれています。

平成22年4月現在では、次のような各学部独自のキャリアデザインサポートの仕組みがあります。詳細については、各学部のホームページや事務窓口で問い合わせてください。

大学としての取組

- ・ **Career Education** : <http://www.cgp.ynu.ac.jp/>

教育人間科学部

- ・ **キャリア開発講座** : <http://career.edhs.ynu.ac.jp/>

経済学部

- ・ **キャリアデザインのためのポータルサイト** 『横浜国立大学経済学部キャリアデザインネットワーク』
(www.econ.ynu.jp/careerdesign/index.html)
- ・ **経済学部教育後援会主催『経済学部生のための就職セミナー』**
(キャリアデザインネットワークおよび経済学部ホームページwww.econ.ynu.ac.jpに情報掲載)

経営学部

- ・ **経営学部のキャリア・デザイン・サポート情報**
(教育プログラム・インターンシップ情報の紹介など) を提供するページ
『横浜国立大学経営学部キャリア教育』 (<http://www.business.ynu.ac.jp/contents/intern/>)

工学部

- 生産工学科 : <http://www.me.ynu.ac.jp/>
- 物質工学科 : <http://www.bsk.ynu.ac.jp>
- 建設学科 : **都市基盤コース** : <http://www.cvg.ynu.ac.jp/G0/index-j.html>
- 建設学科 : **建築学コース** : <http://www.arc.ynu.ac.jp/>
- 建設学科 : **海洋空間のシステムデザインコース** : <http://www.shp.ynu.ac.jp/>
- 電子情報工学科 : <http://www.dnj.ynu.ac.jp/DNJ/index-j.html>
- 知能物理工学科 : <http://www.phys.ynu.ac.jp/>

Ⅱ.3 キャリア教育科目

大学は、皆さんのキャリアを形成していく場とも言えます。本学には、様々なキャリア・デザインに応じた授業科目がありますが、自分のキャリア・デザインを意識し、明確な目的意識を持って学ぶことが大切です。

キャリア・デザインの基礎となる知識や力を養うことを意図した「キャリア教育科目」としては、以下のような授業科目があります。

教養教育科目 講義形式の授業科目

科目名	教養教育 専門科目 国際交流科目の別	担当教員名	単位数	前期・後期 通年等の別	対象とする 受講者	その他
教育ボランティア入門	教養教育		2	前	1～4年	22年度は開講せず
経営者から学ぶリーダーシップと経営理論	教養教育	井上 徹	2	前	1～4年	経営学部インターン シップ前提科目
ベンチャーから学ぶマネジメント	教養教育	井上 徹	2	後	1～4年	
障害者支援ボランティア入門	教養教育		2	後	1～4年	
地域連携と都市再生A	教養教育	高見澤 実 他	2	後	1～4年	
地域連携と都市再生B	教養教育	高井 正 他	2	前	1～4年	
特別活動研究	教養教育	犬塚 文雄	2	前	1～4年	
社会科学概論A	教養教育	山岡 龍一	2	前	1～4年	
社会科学概論B	教養教育	山岡 龍一	2	後	1～4年	
心理学A	教養教育	福田 幸男	2	前	1～4年	
心理学B	教養教育	堀井 俊章	2	前	1～4年	
日本国憲法	教養教育	磯本 典章 原田 一明	2	前2クラス 後2クラス	1～4年	
法学概論	教養教育	磯本 典章	2	前	1～4年	
現代と法	教養教育	加藤 峰夫	2	後	1～4年	
機械工学と社会との関わり合い	教養教育	藪田 哲郎 他	2	前2クラス	1～4年	工学部生産工学科 履修推奨科目
土木工学と社会	教養教育	椿 龍哉 他	2	前	1～4年	
物質工学と社会	教養教育	松本 幹治	2	前	1～4年	工学部物質工学科 履修推奨科目
安全・環境と社会	教養教育	藤江 幸一 他	2	前	1～4年	
電子情報工学と社会	教養教育	倉光 君郎 他	2	後	1～4年	工学部電子情報工学科 履修推奨科目
海洋工学と社会	教養教育	海洋システム各教員	2	後	1～4年	
都市と建築	教養教育	大原 一興 他	2	後	1～4年	
逸脱行動の社会学	教養教育	渡部 真	2	後	1～4年	
現代の物流経営	教養教育	松井 美樹	2	後	1～4年	
現代政治（日本）	教養教育	高山 裕二	2	後	1～4年	
地球環境時代の企業と社会	教養教育					22年度は開講せず
土木事業と社会システム	教養教育					22年度は開講せず
倫理学	教養教育	下城 一	2	前	1～4年	
社会の変化と自己啓発A	教養教育	居郷 至伸	2	前	1～4年	
社会の変化と自己啓発B	教養教育	居郷 至伸	2	後	1～4年	
リーダーシップ論	教養教育					22年度は開講せず

実習やプレゼンテーション技法の習得を行う科目

科目名	教養教育 専門科目 国際交流科目の別	担当教員名	単位数	前期・後期 通年等の別	対象とする 受講者	その他
アカデミック・トークA	教養教育	三戸 浩 他	2	前	1～4年 (経営学部生を除く)	
アカデミック・トークB	教養教育	原 俊雄 他	2	前	1～4年 (経営学部生を除く)	
アカデミック・トークC	教養教育	白井 美由里	2	前	1～4年 (経営学部生を除く)	
アカデミック・トークD	教養教育	山口 修 他	2	前	1～4年 (経営学部生を除く)	
教育と法	教養教育					22年度は開講せず
出会いと気づきのワークショップ入門	教養教育					22年度は開講せず
地域課題実習Ⅰ	教養教育	三輪 律江 他	1	前・集中	1～4年	
地域課題実習Ⅱ	教養教育	三輪 律江 他	1	後・集中	1～4年	

専門教育科目

講義形式の授業科目

科目名	教養教育 専門科目 国際交流科目の別	担当教員名	単位数	前期・後期 通年等の別	対象とする 受講者	その他
教育社会学	専門（教育）	新谷 康浩	2	後	2～4年	
消費生活論		西村 隆男	2	前	2～4年	
国際社会の現状		村田 忠禧	2	後	1～4年	
調査技法B		安藤 孝敏	2	前	2～4年	
世代の多元性		安藤 孝敏	2	後	2～4年	
高齢化社会の行方		安藤 孝敏	2	後	2～4年	
トータルコンディショニング		蝶間林 利男	2	前	2～4年	
家族関係学		鈴木 敏子	2	後	2～4年	
地球環境学への招待		地球環境課程教員	2	前	地球環境1年	
人間と地球社会		長谷部 英一 他	2	前	1～4年	
キャリア形成論	専門（経済）	井田 講師	2	前	2～4年	
コマツ連携講義「日本の国際協力」 (仮)		JECK (JICAのOB組織)	2	前	2～4年	
日本の環境・経済発展協力		JECK連携講義	2	前	2～4年	
野村證券連携講義「資本市場の役割 と証券投資」		野村證券各担当者	2	後	2～4年	
「日米の経済関係と国際教育政策」		田浦 宏巳	2	前	2～4年	平成22年度は休講
企業と社会		三戸 浩	2	後	2～4年	
現代企業論		三戸 浩	2	前	2～4年	
富丘会連携講義「社会における実践 体験－富丘会メッセージ－」		原 俊雄	2	前	3～4年	*平成22年度は 経営学部開講
総合応用工学概論		渡辺 俊夫	2	前	2～4年	
物理キャリアアップ		大野 かおる	2	後	1～4年	集中講義
先端電子情報工学	専門（工学）	吉川 信行	2	前	3～4年	
物理学と先端技術		佐々木 賢	2	前	2年	
現代社会と物理学		佐々木 賢	2	前	3年	
学際性・国際性キャリア演習		各 教員	2	後	1～4年	集中講義

実習やプレゼンテーション技法の習得を行う科目

科目名	教養教育 専門科目 国際交流科目の別	担当教員名	単位数	前期・後期 通年等の別	対象とする 受講者	その他	
教育実地研究	専門（教育）	野中 陽一 他	2	前・後	2年		
学外活動・学外学習Ⅰ		杉山 久仁子 他	2	前・後	1～4年		
学外活動・学外学習Ⅱ		杉山 久仁子 他	2	前・後	1～4年		
学外活動・学外学習Ⅲ		杉山 久仁子 他	2	前・後	1～4年		
教育実習Ⅰ（小学校）		指導教員	4	前	3年		
教育実習Ⅱ（中学校）		指導教員	2	前	4年		
教育実習Ⅲ（障害児教育）		障害児教育教員	2	前	4年		
教育実習Ⅳ（中学校N系主免用）		指導教員	4	前	4年		
教育実習Ⅴ（高等学校）		指導教員	2	前	4年		
実習・事前・事後指導		指導教員	1	後	3年		
初等フィールドワーク研究	専門（経済）	石田 淳一 他	2	前・後	1～4年		
インターンシップ		小坂講師	2	後	2～4年		
インターンシップ		専門（経営）	井上 徹	1	前	1～4年	認定単位数は、就業内 容・就業時間に応じて 算定
				1	後		
				2	前		
				2	後		
				3	前		
				3	後		
4		前					
4		後					
マイ・プロジェクト・ランチャー	井上 徹 他	2	後	1～4年			
マーケティング・プラクティス	伊藤 淳司	2	前	2～4年			
生産工学インターンシップ	田中・竹田	2	後	生産工学科			
物理学インターンシップ	各教員	1	後	知能理工学科			
学外実習	専門（工学）	各教員	1	後	建設学科都市 基盤コース		
学外実習		吉川・馬場	2	集中講義	電子情報工学科		
技術者倫理ワークショップ		齋藤 義順 他	2	後	物質工学科		
インベスティゲーション実習		武田・Raebiger	2	前	3年		
プレゼンテーション実習		田中 正俊	2	後	3年		

*履修制限がある科目も含まれますので、各学部の履修の手引きを参照してください。

【参考】また、本学で取得できる資格には、以下のようなものがあります。

区分	資格	受験者の資格
教育人間科学部	学校教育課程 地球環境課程 マルチメディア文化課程 国際共生社会課程	学芸員 社会教育主事 (全ての課程で修得可能)
工学部	生産工学科 物質工学科 建設学科 電子情報学科 知能理工学科	測量士補 (建設学科都市基盤コース) 電気通信主任技術者 (電子情報工学科) 2級建築士 (建設学科建築学コース) 甲種危険物取扱者 (物質工学科)

資格の取得には、様々な要件が定められていますので、資格取得を目指す皆さんは、各学部の履修の手引きの該当箇所を確認してください。

Ⅱ.4 インターンシップ

インターンシップは、大まかに言えば「就業・活動の体験・実践」です。

大学教育の一環としてインターンシップを行う目的の一つは、「体験・実践」です。すなわち、卒業後に身をおくであろう実社会の活動を事前に体験し、大学で学んでいることと実社会の活動との意識の中の乖離をなくすこと、学んだことを「実践」に役立てる「体験」を積むこと、この体験を通じて学ぶ動機や意欲を喚起すること、さらに、卒業後は、無理なく実社会に馴染んでいけるようにすることです。従って、「体験・実践」を目的としてインターンに参加するのは、必要な学問を大学で相当程度学んだ後になります。これは、社会に出る準備として、大学において学んだ事柄が実社会の様々な活動の中でどのように生かされているか、生かしていくことができるかを知るためには、ある程度前提となる知識が必要だからです。

もう一つの目的は、「学び・気づき」です。それは、実社会での活動・就業の中で、大学の中ではなかなか学ぶことができない「実践の中での知」、「実社会で必要とされること」、「自分のキャリア・デザインに必要なこと」を学び、それらをフィードバックすることによって、目的意識を持って積極的に学ぶ姿勢を培う、ということです。

インターンシップには、企業が独自に公募するもの、インターンシップコーディネイト団体が仲介を行うもの、大学が募集するものと様々です。最近では、大学3年次の夏休みを利用したインターンシップが多くなっていますので、参加を希望される学生は、インターネット等から検索してみてください。

なお、本学の一部の学部等では、授業科目として「インターンシップ」を位置づけ、単位認定を行っている学部もあります。詳細は各学部等の履修手引等を参照してください。

【参考】 本学のインターンシップ・学外実習

●本学の授業科目として位置づけられているもの

教育人間科学部 学外活動・学外実習Ⅰ
経済学部 インターンシップ
経営学部 インターンシップ
工学部（生産工学科）生産工学インターンシップ
工学部（建設学科都市基盤コース）学外実習
工学部（建築学コース）建築史演習
工学部（電子情報工学科）学外実習
工学部（知能物理工学科）物理工学インターンシップ

●資格取得のための要件であり、本学の授業科目として位置づけられているもの

教育人間科学部 教育実習
博物館実習
経済学部 教育実習
経営学部 教育実習

●平成21年度インターンシップ

大学が募集したもの

国、地方自治体等

文部科学省、農林水産省、厚生労働省、環境省、外務省、東京都、大阪府、神奈川県、横浜市、川崎市、千葉市、東京国立博物館、海洋研究開発機構、国立教育政策研究所、横浜国立大学

民間企業等

横浜ロイヤルパークホテル、ホテル・ニューグランド、ヨコハマグランドインターコンチネンタルホテル、横浜ベイシェラトン&タワーズ、グレイスホテル、ロイヤルホール、横浜銀行、神奈川県銀行、横浜信用金庫、高島屋横浜店、そごう横浜店、富士シティオ、相鉄ローゼン、有隣堂、神奈川トヨタ自動車、神奈川日産自動車、横浜トヨペット、東急車輛製造、三菱重工業横浜製作所、東京濾器、日本発条、相鉄企業、協和設計、川本工業、光電社、崎陽軒、タカナシ乳業、タカナシ販売、八千代ポトリ、相模鉄道、三協運輸、丸全昭和運輸、ゼロ、バンテック、タウンニュース社、NTT東日本ー神奈川、税理士法人アイ・パートナーズ、海外技術者研修協会横浜研修センター、ハイマックス、三井住友海上火災保険(株)等

●インターンシップ情報等検索サイト

国内

@インターンシップ (<http://www.at-internship.com/>)

みんなのインターンシップ (「みんなの就職活動日記」内) (<http://intern.nikki.ne.jp/>)

インターンシップ.net (大学生応援ポータル「DO-CAMPUS」内) (<http://intern.do-campus.net/>)

インターンシップ推進センター公式サイト (<http://www.internship-ssc.org/>)

産学プラザ (<http://www.sangakuplaza.jp/>)

職業別インターンシップ (<http://www.1st-internship.jp/>)

インターンシップ情報 Bi助っ人 (<http://www.oohi.net/>)

INTERPERSONAL (<http://www.interpersonal.jp/>)

デジット (<http://www.digit.co.jp/>)

II.5 キャリア教育書籍について

みなさんに取り組んでもらうキャリアデザインファイルの意義をより深く理解してもらうために以下の本を挙げてみました。ここに挙げた本をきっかけに自分の仕事への興味・関心を見出してみませんか。

1 キャリアデザインを考えるのに読みやすい本はないの？

安野モヨコ『働きマン』講談社モーニングKC 各514円

モーニングに連載されているマンガで、単行本は2008年1月現在4巻まで出ています。週刊誌女性記者をとりまく人々が、各自の仕事にどう向き合っているのかを描いています。

B-i n g編集部『プロ論。』『プロ論。2』『プロ論。3』徳間書店 各1680円

リクルートの『B-i n g』連載の著名人からの生き方・働き方アドバイスをまとめたものです。そのアドバイスが「仕事でヒットを飛ばしたいとき」や「やりたい仕事が見つからないとき」のように項目別に整理されています。

山本直人『大学生のためのキャリア講義』インデックス・コミュニケーションズ 2007年 1575円

キャリアとは何か、働くこと、自分自身をつくることといった事柄を、著者が実際に大学で行った講義を再現する形で紹介しています。受講学生からの質問への答えも盛り込んでいます。

原田翔太『勉強のルール28歳までに結果を出す!』アスコム 2009年 1429円(税別)

日々の学びが成果につながるには、20代の勉強法が重要と説く著者。ノートや手帳の活用、読書法、だけに留まらず、ブログやSNS、さらにはツイッターやiPhoneの活用術まで紹介した「結果を出すまでの勉強法」について紹介しています。

2 なぜ働かないといけないの？

玄田有史『14歳からの仕事道』理論社YA新書 2005年 1260円

ニートの紹介者として有名な労働経済学者が、14歳くらいの年齢層にも分かるように働く意味について書いたものです。

中島義道『働くことがイヤな人のための本』新潮文庫 2004年 400円(税別)

哲学者の中島が、仕事に生きがいを見出せない人との想定問答を通して、働くとは何なのかを考えています。

大場健『いま、働くということ』ちくま新書 2008年 780円(税別)

哲学者、倫理学者である著者が、「何のために働くのか?」という問いに対して、いのちの再生産という視点を踏まえて論じています。

3 キャリアデザインって何なの？

上西充子・柳川幸彦『キャリアに揺れる』ナカニシヤ出版 2006年 1500円(税別)

法政大学キャリアデザイン学部のキャリアカフェに展示しているおすすめの本を30冊紹介しています。

金井壽宏『働くひとのためのキャリアデザイン』PHP新書 2002年 780円(税別)

経営学者の金井が、人生の節目に自分を見つめ直し、将来の方向性をじっくり考える「キャリアデザイン」を薦めています。

所由紀『偶キャリ。—「偶然」からキャリアをつくる』経済界(新書) 2008年 900円

キャリア創造のプロセスには、「たまたま」や「偶然」の出来事や出会いをきっかけにできるような直感を磨くことが必要であることを、実例をもとに分析しています。

高橋俊介『キャリアショック』東洋経済新報社 2000年 1500円（税別）

タイトルにある「キャリアショック」とは、自分の描いてきたキャリアの将来像が、予期しない環境や状況の変化により、短期間のうちに崩壊してしまうことだ、と著者は述べています。キャリアショックに備えていくための自分にとって好ましい変化をどう仕掛けていけばよいかについて論じた本です。

4 大学で学ぶことは役に立つの？

矢野真和『教育社会の設計』東京大学出版会UP選書 2001年 2000円（税別）

「学校の知識がなぜ役に立たない」と思われているのか、学校知識の隠蔽説で説明しています。

竹内薫『99.9%は仮説』光文社新書 2006年 700円（税別）

科学の基本とは「世の中ぜんぶ仮説にすぎない」と著者はいう。科学とは何か？を問いつつ、大学での学びについて考えてみてはいかがでしょう。

苅部直『移りゆく「教養」』NTT出版 2007年 2000円（税別）

「教養」の論じられ方をめぐる変遷を検証しつつ、今後のあり方について論じた書。大学の「教養」についても触れています。

浦坂純子『なぜ「大学は出ておきなさい」と言われるのか—キャリアにつながる学び方』2009年
ちくまプリマー新書 760円（税別）

何のために学ぶのか、大学で本当に身につけるべき「チカラ」とは何か、大学進学の特典や大卒労働市場の動向も踏まえつつ、書いています。

5 大学生の就職はどうなっているの？

安田 雪『大学生の就職活動』中公新書 1999年 660円（税別）

少し古いですが、就職活動の背後にある社会的要因から就職問題を解き明かしています。

香山リカ『就職がこわい』講談社 2004年 1300円（税別）

精神科医の香山が在職している大学の学生を相手にする中で、彼ら若者が就職に向き合いたくなくなっている状況を分析しています。

小杉礼子『大学生の就職とキャリア』勁草書房 2007年 2200円（税別）

学生はどのような就職行動をとり、大学の支援はいかなる効果を及ぼしているのかについて、2万人近い大学生のデータと大学の就職指導の調査をもとに、大学教育とキャリア形成支援のあり方を検討しています。

Ⅱ.6

キャリア支援関連行事日程（平成21年度例）

実施期日等		事業内容
平成21年5月19日（火）	教職志望	筆記試験の出題傾向と対策・相談
5月26日（火）	教職志望	採用したくなる論作文の力をつける。実践と相談1
6月3日（水）	教職志望	採用したくなる論作文の力をつける。実践と相談2
6月10日（水）	教職志望	模擬授業の評価のポイントと実践・相談
6月17日（水）	教職志望	面接試験の新傾向と対策・相談（1）
6月24日（水）	教職志望	面接試験の新傾向と対策・相談（2）
6月23日（火） 6月24日（水）		第1回就職ガイダンス（就職の手引き等配付）就職活動の進め方と心構え 職務適正テスト実施
7月1日（水）		第1回公務員ガイダンス 公務員試験突破法と試験スケジュール
7月9日（木）		第1回就職教養講座 自己分析講座
7月10日（金）		特許庁業務説明会
7月14日（火）		第2回就職教養講座 業界研究講座
7月16日（木）		第3回就職教養講座 企業の隠れた魅力のを見つけ方
10月6日（火）		第2回就職ガイダンス（文系学生対象） 具体的な就職活動と適職探しのヒント
10月7日（水）		第3回就職ガイダンス（理工学系学生対象） 具体的な就職活動と適職探しのヒント
10月20日（火）		第2回公務員ガイダンス 人事院による国家公務員説明会
10月8日（木） ～1月12日（火）		業界別就職セミナー 各企業の人事担当、OB・OGを中心として27社
11月18日（水）		第4回就職教養講座 エントリーシート実践講座
12月2日（水）		第5回就職教養講座 新聞の読み方と業界動向
12月7日（月）		第3回公務員ガイダンス（東京都庁・神奈川県庁）
12月16日（水）		第4回公務員ガイダンス（東京都特別区・横浜市）
平成22年1月21日（木）		国税庁業務説明会
12月9日（水） ～1月22日（金）		第6回就職教養講座 模擬面接講座12/9 1/14 1/19 1/22
1月13日（水）		第7回就職教養講座 四季報から読み解く企業研究講座
1月27日（水）	教職志望	筆記試験の出題傾向と対策・相談
2月4日（木）	教職志望	採用したくなる論作文の力をつける。実践と相談1
2月17日（水）	教職志望	面接試験の新傾向と対策・相談（1）
2月18日（木）	教職志望	採用したくなる論作文の力をつける。実践と相談2
2月24日（水）	教職志望	面接試験の新傾向と対策・相談（2）
3月3日（水）	教職志望	模擬授業の評価のポイントと実践・相談

Ⅱ.7 キャリア支援関連行事日程（平成22年度予定）

授業最優先で参加願います

実施期日等		事業内容
平成22年5月14日（金）		インターンシップ対策
5月～6月	教職志望	教職を目指すにあたって（全6回予定）
6月4日（金）		公務員ガイダンス 公務員試験突破法と試験スケジュール
6月10日（木）		第1回就職ガイダンス（就職の手引き等配付）
6月11日（金）		就職活動の進め方と心構え
6月16日（水）		マスコミ業界
6月28日（月）		就活中4年生、修士2年生向けガイダンス
7月1日（木）		就職活動に必要なコミュニケーション能力
7月6日（火）		筆記試験対策
7月9日（金）		新聞の読み方
7月12日（月）		自己分析
7月16日（金）		業界研究
7月22日（木）		理系セミナー 理系人材のキャリアとは
7月28日（水）		四季報から読み解く企業研究
10月5日（火）		第2回就職ガイダンス（文系学生対象） 具体的な就職活動と適職探しのヒント
10月6日（水）		第3回就職ガイダンス（理工学系学生対象） 理系の適職の見つけ方
10月12日（火）		理系セミナー 自分にあった仕事・会社の見つけ方
10月18日（月）		公務員ガイダンス（人事院）
10月26日（火）		理系セミナー 自己の方向性と適職を見いだす方法
10月～12月		業界別就職セミナー 人事担当、OB・OGを中心として28社
11月1日（月）		理系セミナー コミュニケーション力実践
11月25日（木）		人事担当者から見た履歴書・エントリーシート
12月1日（水）		エントリーシートの書き方
12月3日（金）		公務員ガイダンス（都庁・神奈川県庁）
12月16日（木）		公務員ガイダンス（特別区・横浜市）
12月21日（火）		選考直前！就活総点検
12月～平成23年1月		模擬面接講座（全4回）
1月		就職口コミ活用法
1月～2月	教職志望	教職を目指すにあたって（全6回予定）

キャリア相談週間等（予定）

平成22年	4月7日（水）	12：00～	キャリア教育講座（場所：教育人間科学部7号館101教室）
	4月7日（水）		
	）		キャリア相談週間（問合せ先：キャリアサポートルーム又は教務課）
	4月30日（金）		
	4月21日（水）	12：00～	キャリア教育講座（場所：附属図書館メディアホール）
	10月1日（金）		
	）		キャリア相談週間（問合せ先：キャリアサポートルーム又は教務課）
	10月15日（金）		

大学教育総合センター英語教育部の活動の柱の一つに、「英語学習相談」があります。これは、学部や学年を問わず英語科目の履修や授業外の英語学習について、個々の学生からの相談に応じるものです。

英語実習科目の履修や再履修指導以外にも、学生の自学自習に関連する、以下のような相談を受け付けています：

- 英語実習科目において授業での理解が十分ではなかったことからの補習
- 海外留学や大学院進学を目指すTOEFLやTOEICなどの英語資格試験対策
- 海外で実施されるインターンシップや語学研修、ボランティア活動、外資系企業へのエントリー等の際に必要な、申し込み書類や英文履歴書の作成支援(翻訳の代行は行いません)
- 実戦的な会話学習指導

相談は予約制です

英語学習相談は、原則、メールもしくは電話にて事前予約を行い（メール：eestsche@ynu.ac.jp、電話：045-339-3135）、面談の日時を決定して英語教育部所属の教員が対応します。

英語教育部情報web

英語教育部情報webは（<http://jen1.yec.ynu.ac.jp/students/>）、英語履修・再履修に関する掲示文書、英語学習教材に関する情報、CALL教室の利用状況、授業支援システム(Jenzabar, Web Bulletin Board)や英語実習関連の授業サイトへのリンク、等を提供しています。ぜひ「お気に入り」に登録してください。

The screenshot shows the website interface for the English Education Center. It features a navigation menu, a 'What's NEW IN YNU English Language Learning?' section with a list of news items, and a 'September 2009' graphic. The news items include:

- 20090606: 留学生生活支援部がワンストップ、授業履修、課外活動のワンストップ提供(1)
- 20090406: 英語履修相談室(大学教育総合センター)2009年度への履修(1)
- 20090406: 平成17年度英語履修相談室1学期履修の履修について PDF (2)
- 20090406: 平成17年度英語履修相談室2学期履修の履修について PDF (2)
- 20090406: 平成17年度英語履修相談室3学期履修の履修について PDF (2)
- 20090406: 平成17年度英語履修相談室4学期履修の履修について PDF (2)
- 20090406: 平成17年度英語履修相談室5学期履修の履修について PDF (2)
- 20090406: 平成17年度英語履修相談室6学期履修の履修について PDF (2)
- 20090406: 平成17年度英語履修相談室7学期履修の履修について PDF (2)
- 20090406: 平成17年度英語履修相談室8学期履修の履修について PDF (2)



英語学習相談室に来るには？

中央図書館を正面に見て、右手の坂を上り、途中、パソコン教室CDを通り過ぎます。坂を上りきったところで左を向くと、センターの看板が見えます。矢印に従って建物内に進んでください。

II.9 図書館の活用

大学生として、幅広く情報を集めて上手に使いこなす能力（これを「情報リテラシー」といいます。）を身につけることはとても大切です。図書館はみなさんがそうした能力を身につけるための強い味方です。

新聞・雑誌に目を通そう

中央図書館の2階リフレッシュルームには、「朝日新聞」「産経新聞」「日本経済新聞」「毎日新聞」「読売新聞」「神奈川新聞」「Japan Times」などが揃っています。また、3階の雑誌閲覧フロアには、キャリア・デザインにも役立つ多くの雑誌が並んでいます。新聞や雑誌を活用して、広く社会の動向や最新のニュースなどに目を通す習慣を身につけましょう。

自分に役立つ本を探そう

大学にはみなさんのキャリアデザインに役立つ図書が多数存在します。オンライン蔵書検索システム（Online Public Access Catalogの頭文字をとってOPACと呼ばれます。）を使って、書名や著者名、キーワードなどで自分に必要な本や雑誌などを探してみましょ。

OPAC : <http://opac.lib.ynu.ac.jp/>

また、大学に無い本でも「神奈川県図書館情報ネットワーク・システム（KL-NET）」で、県立図書館をはじめとした県内の公共図書館などから無料で取り寄せることもできます。

図書館職員のサポートを活用しよう

●企画展示「大学生活に役立つ本」

図書館の職員が、その時々合ったテーマを決めて、図書館蔵書の中からみなさんにお勧めしたい本を選んで、一定期間中央図書館2階で紹介するものです。これまでに「**新学期**」「**図書館活用術**」「**レポート・論文作成**」「**就職**」「**図書館職員おすすめ本**」といったテーマで開催し、展示された本は多くの学生に利用されています。

●「わが大学の研究」コーナー

横浜国立大学の刊行物や教員・卒業生の著作を並べたコーナーが中央図書館2階に設けられています。大学の教育・研究活動の状況や卒業生の活躍状況などを知る手助けになります。

●図書館活用サポート（講習会）

みなさんが、図書館をより有効に活用できるよう、図書館職員が新入生向けの利用案内や館内ツアー、以下のような講習会などを実施しています。

資料の探し方…………… OPACによる本学蔵書の検索～利用までの方法。他の図書館の蔵書の検索～利用の方法。

論文・記事の探し方…………… 雑誌論文・新聞記事検索のためのオンラインツールの利用方法。

調べもの実習…………… 目的にあった参考図書やオンライン・データベースを選択し利用する方法。

レポート・論文の作成方法… 一般的なレポートや論文を書くためのステップや基本的なルール。

この他にも、カフェや情報ラウンジ、メディアブース、ワーキングスタジオ、PCプラザなどの多くの施設や様々な資料を備えた図書館を、大学生活で上手に使いこなしてください。



Our Career Design

私たちの キャリアデザイン

キャリアデザインファイルコンテスト2009
受賞作品掲載

「先輩はキャリアデザインファイルをどのように使ったのだろうか？」

いざ自分が使おうとすると、他の人がどのように使ったのか気になるかもしれません。

それをみなさんに知ってもらいたくて、キャリアデザインファイルコンテストを開きました。前半部分はその応募作品を掲載します。ここに掲載された先輩方は、いろいろ悩みながらも、現時点での自分の立ち位置を確認できています。いわば応募作品は現時点での先輩方の成長の証です。みなさんも是非、先輩方のように自分と向き合ってみてください。我々はその成長を暖かく応援したいと考えています。

また後半のコラムは、ティーチングアシスタントの大学院生がキャリア教育科目を紹介しています。授業担当の教員の視点とは違う捉え方になっていると面白いですね。

キャリア教育書籍については、学部生に書いてもらっています。

工学部と経営学部の内容は、担当する教員に紹介コラムを書いてもらいました。

このコラムを読んでもらえば、キャリアデザインをし、キャリア教育を受けることの面白さが分かるのではないのでしょうか。

今年度取り上げたのは以下の科目・書籍です。

キャリアデザインファイルコンテスト2009受賞作品

- 001 「選択の自由と責任」
- 002 「僕がキャリアデザインファイルを使わない理由」
- 003 「私のキャリアデザインファイル」
- 004 「インターンシップ制度の意義」

キャリア教育科目

- | | |
|-----------------------------|----------------------------|
| 005 「逸脱行動の社会学」 | 015 「教育実地研究（音楽）」 |
| 006 「倫理学」 | 016 「教育実地研究（教育基礎）」 |
| 007 「出会いと気づきのワークショップ
入門」 | 017 「教育実地研究（心理発達）」 |
| 008 「教育社会学」 | 018 「消費生活論」 |
| 009 「調査技法B」 | 019 「学外活動・学外実習Ⅰ」 |
| 010 「世代の多元性」 | 020 「学外活動・学外実習Ⅱ」 |
| 011 「高齢化社会の行方」 | 021 「経営学部ビジネス・キャリア教育プログラム」 |
| 012 「地球環境学への招待」 | 022 「知能理工工学科のキャリア教育科目群」 |
| 013 「人間と地球社会」 | |
| 014 「教育実地研究（国語）」 | |

キャリア教育書籍

- 023 「働きマン」
- 024 「働くことがイヤな人のための本」
- 025 「就職がこわい」

キャリアデザインファイルコンテスト2009受賞作品

「選択の自由と責任」

私は、キャリアデザインファイルを利用して、自分の中での「就職」に関する考えについて改めて考えてみました。正直言って、私は大学に入るまで将来の自分の職業について深く考えたことがありませんでした。大学に入るまでは、大学受験に集中するのが精いっぱいでした。しかし、大学に入って慣れてくると友達とも将来についての話をするようになりました。そこで思ったのは、受験も就職も自分でやりたいことを選択して進路を決めるというのは同じですが、就職は今までの受験などと違って一気に選択の幅が広がるということです。私は今まで4回受験を経験してきましたが、どれも割と選択の幅は狭かったような気がします。小学校・中学校・高校は地元の範囲内で決めていたし、大学は地元内で選ぶよりも選択の幅がだいぶ広がりましたが、それでもやはり選択出来るものには限度がありました。しかし、就職となれば今までとは比べ物にならないほど選択肢が増えます。今は日本全体が不況で、思い通りにならないことも多いと思いますが、それでも膨大な量の選択肢があると思います。今までよりも選択肢が大幅に増えたことはとても嬉しいし、その中で将来本当に自分のやりたいことを見つけられれば大変幸せだと思います。でも、選択肢が増えるということは良いことばかりではないかもしれません。私は今まで、周りの人（両親など）が引いたレールの上を歩いてきたような部分がありますが、それで全然後悔はしていないし、むしろ楽な気持ちでここまで来させてもらったような気がします。裏を返せば、全てを自分自身で選択するということは思っている以上に大変なこともかもしれないということです。就職は自分の将来を決めるにあたって最も重要なことだと思うし、その上選択の責任が全て自分にあるということを考えると、少し足がすくむ思いです。自分の将来を決めるうえで、選択の自由の裏には、その自由に対応する大きさの責任があるということになると思います。責任

のない人は、選択の幅を広げる権利はないと思います。私は、大学生活は就職先の選択の時ににおける責任力を養うためにあると思います。もう就職活動の段階からは、両親に頼ってばかりいることは許されません。いかに責任を持って自分の就職先や将来を決めることができるかが大事なことだと思います。たとえ自分で間違えた選択をしてしまったとしても、誰も責任を取ってはくれません。大学2年生の11月現在の私には、まだ広い選択の自由を受け止めるほどの十分な責任力はないと思います。就職活動を始めるまで、もう1年をきりました。大学入学から今までに考えていた就職に関する考えを今もう一度改めなおして、しっかり自分の将来に責任を持って、職業を選択出来るように力をつけたいと思います。

教員からのメッセージ

キャリアデザインファイルを利用することで、「選択の自由」とその背後にある「責任」に気づき、「少し足がすくむ思い」になっているとのこと。しっかりと総括のできるあなたには、そこまで「責任力」と気構えなくても大丈夫かと思えます。自分自身の大学生活を振り返ってみても、将来の進路希望が二転三転してなかなか決まらなかったことを思い出します。重要なのは、自分の進路や将来について考える時間を時々とってあげることです。キャリアデザインファイルはそのツールとして「使え」ます。また、最終的な決断は自分自身とはいえ、1人で抱え込まずに、友人、先輩、両親らと進路について時折語り合うことも、視野を広げることにつながるのととても有益です。

人生に正解はありません。試行錯誤するプロセスを楽しみながら、より適した自分なりの将来の進路を見つけていってください。横浜国大のキャリア教育も一生懸命にがんばるあなたをサポートしますよ。

H

キャリアデザインファイルコンテスト2009受賞作品

僕がキャリアデザインファイルを使わない理由 ～キャリアデザインファイルへの私的提言～

僕は常々こう思っていた。現在のキャリアデザインファイルは、はっきり言って、作り手が使う側のことを一切考えずに作っている、と。まずデザインはダサく、書く分量は多く、そして、いざ書き込もうとしても、紙質の問題なのか凄く不快な音が出ると言った始末である。こんなファイルだからか、僕の友達にアンケートをとった結果、僕の周りでも使っている人間は、僕含めて皆無であった。

しかしだからと言って、僕がキャリアデザインファイルについて否定的かと言われると、決してそういったわけではない。僕自身キャリアデザインファイルのコンセプト自体に否定的なわけではない。むしろ肯定的だ。ファイルの記入によって、自分自身の内省にもつながるだろうし、そこから見えてくる、何ものかもあるだろうということとは予想できるからである。

では、なぜそこまで分かっていて、なお使わないか。ということであるが、言ってしまうと、上記の理由も相まって、記入がメンドクセイからである。効果があるとは分かっていても、ただでさえ日常に追われ、そういった機会を自ら進んで設けられるような強い人間はそんなに多くはないのである。

そういったことを踏まえ、では、どうすれば使う人間が増えるかを考えてみると、何のことはない。現在のファイルとは逆に、気軽に書き込めるキャリアデザインファイルを作成すればいいのである。どうやるのか。大体の学生は、大学に入りサークルやバイトなどの多くの予定をやりくりするために、手帳を使い始める。この手帳にキャリアデザインファイルの機能を盛り込んでしまえばいいのだ。そうすれば、飛躍的に使う人は増えるはずである。題して“キャリアデザインファイル手帳化計画(仮)”である。

手帳化のメリットは幾つかあるので順を追って説明する。

- ① 気軽に書き込める
今のキャリアデザインファイルは、書こうとする意志を持ち、まとまった時間をワザワザとらなければならぬ。記入するだけで萎えるような代物であっては未来永劫誰も使わないだろう。その点手帳は、「いつでも、どこでも」書き込めるというメリットがある。
- ② 持ち運びに便利
気軽に書き込める条件として、携帯することが重要である。何か重要な気づきに遭遇したとき、さっと取り出し、書き込める。この手軽さこそ重要である。なので、分厚すぎるのも当然良くない。
- ③ 内容に自由度を
人によって重要な気づきや、現実の切り取り方は違う。にもかかわらず、今のデザインファイルのように多数の項目を予め設定し、方向付けされてしまうと、そういった発想を奪ってしまいかねない。項目は気づきに出会う最初の一步の、あくまで手助けに徹すべきだ。
- ④ 表紙はかわいい
その上で、さらに持ち歩きたい！という動機付けは必要である。表紙のデザインは着せ替え出来るようにするのは当然として、そのデザインは公募する。ただ公募してもデザインは集まらないだろうから、教育人間科学部の美術科の生徒に働きかけてコンペにして

も、面白いはずである。

- ⑤ 学生本位の機能
学生が使う上で便利な機能をつける。他にも小さな工夫かもしれないが、例えば、予めカレンダーに単位履修のスケジュールや、テスト期間を書き込んでおくのも良いだろう。さらに周囲の病院マップなど、国大生が使うことに特化した機能も有効だろう。

以上のように、学生の視点に立った真に必要なとされる手帳を作り、その中の機能としてキャリアデザインファイルを入れ込んでしまえば、使う人も増えていくのではないかと思うのである。

そして、この提案にはさらに続きがある。手帳を使うことを通して得た、気づきについて発表する場を設けるのである。そうすることによって、今まで半ば強制的にファイルに書き込む際に行っていた自己の内省が、発表するという直接的な目的と結びついてより明確になり、そのこと自体が今までファイルが行おうとしていた億劫な作業を緩和することに繋がる。そして、そればかりか、発表するという形式をとることにより多くの人間の価値観に触れる機会ともなりえるはずであり、その経験はキャリアをデザインする上で一つの試金石になると思われる。

そして、この発表会のアイデアについては、クラス制度が確立している学校教育課程で試してみてもどうかと思う。まずクラスの中での発表。そしてクラス代表として、学科全体の発表会を行うのはどうだろうか。もちろん運営も学生が主体となって行うことも忘れてはならない。

とにかくやれることはいくらかもある。そしてこの位のアイデアを持っている学生は意外と多いと思うのである。今の国大は、何かにつけて、学生に関することを学生抜きで決めようとする姿が多分に見受けられる。日本型民主主義の一番の問題点は、為政者と統治される側の人間の対話が保障されていない点にあると日々考えているが、こと横浜国大の運営を見ているとその傾向は強いように感じる。

使う側の人間を全く無視したファイルはその一端であるが、もう少し学校の運営などに学生がコミットできるような仕組みがあればいいのではないだろうか。そうすれば、僕のような自分の考えを回りに聞いてもらいたい、目立ちたがり屋な人間のキャリアアップに、そして、そのキャリアアップを背景にしたキャリアのデザインにも大きく貢献するのではないだろうか。

教員からのメッセージ

キャリアデザインファイルを用いる側の視点から、このファイルの使い勝手について、いろいろと提言をしてくれて、ありがとう。あなたが書いているように、このファイルは大学側から、学生の自律的なキャリアデザインの形成に向けて、みなさんの「ために」作成、提供されるだけでなく、みなさんの「立場で」改良すべき事柄を指摘してもらうことでバージョンアップしていくことも重要でしょう。

現在の形状で使用している学生の視点も参考にしながら、学生と教職員の協働を通じてキャリアデザインファイルをよりよいツールにしていけるために、これからの活動に反映していこうと思います。一緒に取り組んでいきましょう！

キャリアデザインファイルコンテスト2009受賞作品

私のキャリアデザインファイル

～入学してからの自分の成長をキャリアデザインファイルを用いてまとめてみました～

① 入学時の自分

大学入学に際し、横浜市内にアパートを借りて下宿を始めました。家賃等で親の援助を受けてはいますが、初めての精神的に大きな「自立」でした。

自分の性格は、人一倍真面目で責任感があるけれど無精なのでやらないものはほとんどやらない、というものです。大学という個々の自主性にほぼ全てが委ねられる場において、自分はどこまで様々なものに全力を費やせるのかが一番の悩みでした。

大学生ともなると周囲の人間もみな精神的に成長をしていて、人間として質の高い付き合いが形成されるものと期待をしていた。

アルバイトもして、勤労と勉学との両立をすることが当初の目標でした。

② 半年後の自分 一年前学期終了時

大学生活を始めて半年間が過ぎ、世間一般という大学生における「自由」の持つ意味は非常に残酷な意味であると認識できた。自主性に委ねられるとは、自分から動かなければ何も与えてもらえないということである。元来無精の嫌いがある自分には痛い事実であった。

理想と現実が、大きく食い違ってきた。

大学生活とは、いかに友人を作るかであると結論付けた。

一度手に入らなかったレジュメは、二度と手に入らないと気付いた。

③ 一年終了時

勉強をしても理解ができない。人に話しかけることが出来ない。

自分を中心にコの字で囲まれて座られた。

人間不信になり、不登校気味になっていった。

その分アルバイトで稼ぎすぎて、扶養控除を外れた。

年次がリセットするので、来年からは友達も作ろうと決意をしました。

来年の自分は、俗世間でいうリア充になると誓った。

大学に入ってから一年で自分はどのように変わったのか。

恐らく、良い意味での成長はあまりなかったように思われます。強いてあげるとすれば、アルバイトで昇格して店舗責任者となれたことだけでしょう。

学科別交流会で交換したメールアドレスは、一度も使われることなく終わりました。

暗くなる一方でした。

④ 二年前学期終了時 現在の自分

現在の自分はどのような人物であるか。

大学に対する一切の希望を捨て、ある意味で吹っ切れました。どうにでもなれという感じです。

不良にボコボコにされて全治一か月を負っても、鞆を盗まれても、大して動じなくなりました。これはプラス面での成長であると考えられます。何事にも挫けないというのは、社会に出た際に大きな強みであります。

自分を客観的に見つめなおす機会というのは、実は非常に少ないです。

また、それを次にどう生かすかについても考えられる。

キャリアデザインファイルは、社会人の日記であると言い換えてもいいのではないのでしょうか。

教員からのメッセージ

君は、大学に入って、「良い意味での成長はあまりなかった」と言いますが、そんなことはないと思う。いろいろなことに気がついた。たとえば「自由」とか「自主性」の重さ。友人の大切さと友人作りの難しさ。実は、コメントしている僕自身の大学生生活もそんなところがありました。何をしたらいいか分からない。何が大事か分からない。勉強だって自慢できるほどやっていたとは言えないし、ただ呆然と日々を過ごしてしまった時期もあった。そんな自分を思い出しました。

でも君は、そういう自分をこのファイルに書き付けた。自分を言葉にして振り返った。そして私たちに伝えてくれた。挫折したり、迷ったり、傷ついたりする君たちと一緒に考えていきたいというのが、横浜国大のキャリア教育の目指すところ。それは君たちだけでなく、私たち大学の教職員が自分自身を振り返る言葉としても響いてくる。

その意味で君は、理想的なキャリアデザインファイルの使い方をしてくれたと思う。全ては今ある自分から始まる。高校までと違って、一見見えにくいかもしれないけれど、「自分から動」けば、大学にはたくさん発見がある。あえて成長とは言わないが、一步一步自分を確かめて生きていってほしい。

ファイルの次のページに何が書かれるのか、楽しみにしている。

T

キャリアデザインファイルコンテスト2009受賞作品

インターンシップ制度の意義

私は特に「インターンシップ」の項目を重視している。

あなたはインターンシップという制度についてどれほどの知識と興味をもっているだろうか。インターンシップとは、学生が一定期間企業に赴き研修生として働き、実社会の活動を事前に体験することで、就職活動でのミスマッチを防いだり、卒業後に無理なく実社会に順応するために就業体験を行える制度である。近年では大学院、短期大学、高等専門学校、高等学校でもインターンシップ制度の導入が進んでおり、この制度の認知度や重要性は年々高まっている。

この制度には様々な利点があるが、私は特にこの就業体験を通じて、学校の講義ではなかなか学ぶ機会の少ない「実践の中での知」を体験できることにとても意義を感じる。私は大学生になって初めてとある飲食店でアルバイトを経験したが、最初は全く思うように動くことができず苦悩したことを鮮明に覚えている。マニュアルを頭に叩き込んでも、やらなければいけないことが同時に降りかかった場合に咄嗟に判断が下せず、優先事項が判らないあまりに何も出来ずにただ呆然としてしまうことが多々あった。しかし実践していくうちに、行動から徐々に焦りが消えていった。可能な限り無駄を省き、対処しなければいけない懸案を優先度順に羅列し、異なることを同時にこなせるようになった。これは一般的に慣れといわれるものだが、しかし私はこの慣れこそが何事にも重要だと信じる。経験に勝る宝はなく、集中して取り組んだ体験は必ずその人の財産になるのだということを、私はアルバイトを通じて学んだ。インターンシップ制度を通じて就業体験を得ることは、後々の就職活動や実社会の活動において大きな肥しとなるだろう。スタートラインから足を踏み出す確かな一歩となるはずだ。

アメリカなどでは、企業が学生を入学時から職場体験させることで、卒業時まで技術や専門知識を入社時に必要な水準まで引き上げる。また大学院まで進学する学生に対しては、研究活動を様々な面で支援して入社後に研究を継続させるといった取り組みもなされているようだ。日本ではほとんどみられないが給料も支給され、

アルバイトをせずに就業訓練を積むことができる。アメリカの雇用形態は日本のような終身雇用（最近では年功序列主義から実力主義に変革しつつあり、この制度は崩壊しつつあるが）ではなく、資本市場中心の短期的雇用契約であるために日本の事情とは異なるが、欧米では日本におけるインターンシップ制度のような就業体験の制度が充実しており、学生は精力的にこういった活動に取り組むことができる。今後日本が世界で通用するためには、若い芽を守り根付かせることも重要なファクターであろう。私も含めた日本中の学生が気軽に、かつ精力的に臨めるようにインターンシップ制度の拡充を期待したい。

教員からのメッセージ

君の言うとおり、インターンシップの意義の一つは、「実践の知」を得ることです。「現場」でしか得られない知はたしかにあります。また、「実際の感覚」も大切だと思います。言葉やマニュアルで知っているのではなく、それを使ってみた感覚とともに知っていることは、言わば「生きた知」だからです。インターンシップは、短期間の体験型から、「期限付き正社員」として働く実践型まで多様な形態がありますが、共通していることは、現場に立ち「実践の知」や「実際の感覚」を得られる機会だと言うことです。

インターンシップのもう一つの意義は、「知の実践」の機会であることだと思います。自分が学んだことを実践してみる機会でもある、ということです。これは、大学の教室で学んだことに限るものではありません。が、自分がそれまでに持っていたものを使ってみる「知の実践」を行い、例えば、実際にはこうした方がいい、という「実践の知」を得る。そして、次の機会には、その新しい知を実践してみる。そういった「知の実践」と「実践の知」のフィードバックによって、インターンシップはより実りのあるものとなると思います。

君のような意識を持ってインターンに臨む学生がいてくれることは心強い限りです。良い成果を期待しています。 T

キャリア教育科目

「逸脱行動の社会学」

キャリアTA 遠藤光泰

「なぜ自殺は罪にならないのか?」「豊かな家庭と貧しい家庭の子どもは、どちらが非行に走る?」「人の命と動物の命の重さが平等でないなら、なぜそうなるのか?」「大学へ行くことのメリットは?」「大家さんとうまくやっていくにはどうしたらいいか?」

これらは「逸脱行動の社会学」の授業で取り上げられた、受講生からの質問集の一部です。

この授業では第1回目の授業時に学生に対して青年文化や社会における疑問・質問を挙げる事が求められ、以降の授業ではその学生の質問に対して講師が答えていくという形式で進められていきます。

もちろん学生からの質問はどれも決まったひとつの答えで納得できるタイプのものではありません（だからこそ学生が質問として挙げていると言えますが）。このような「答えのない質問」に対して講師の渡部真氏は、この授業のテキストとなっている『現代青少年の社会学』（世界思想社、2006年）で次のようなスタンスを述べています。

「①取り上げなければならないと自分が考えた問題は必ず取り上げること、②できるだけ、その問題について多くの考え方を紹介すること、③そのなかで、私自身の考えとその根拠をはっきりと記述すること」(p,1)

これはテキストの進め方に対して書かれたものですが、授業の進め方に対して同じことが言えると思います。授業中では、学生の質問に関連して、テキスト以外の書籍または文学作品や映画、時事問題や経験談を交えた講師の意見が提示されます。それを受けて学生側には、授業中の小レポートおよび期末レポートという形でさらなる意見の提示が求められます。この授業の狙いは、授業全体を通した学生と講師のこうした「問答」にあるということができるとい

う。大学は、高校までと異なり「先生から何かを学ぶ場」ではなく「自ら何かを学ぶ場」ということが言われています。その意味では極めて大学的な授業ということが言え、そこには講師の「学生の直接の要求に応える」という意図が反映されています。

「学校では答えのある問題に取り組むが、社会に出たら答えのない問題ばかりである」という言葉を耳にしたことがあります。学校教育と社会のちょうど中間にある大学という場で、このような「答えのない問題」に取り組むことは学生が自らの価値観をとらえ直す機会になっていると考えます。さらに「キャリア」とはさまざまな選択肢の中からある道を選択することであるならば、そこには主体となる個人の価値観が大きな重要性を持つこととなります。「学生が自らの問いを深化させる中で、価値観を見つめ直す」そういった意味では、全学部・全学年に開講されているこの授業は、その根幹的な部分でキャリア教育の一端を担っていると言えるのではないのでしょうか。



キャリア教育科目

「倫理学」

キャリアTA 福地真弓

「倫理」という言葉を聞くとどのようなことを想像するでしょうか。何か、世間一般、社会一般において守らなければならないこと、規範、ルール、校則、「自分がされて嫌なことは、他の人にもしてはいけません」というような台詞。いろいろ思い出されることはあるはずです。そしてそれに反感・違和感を覚えたことも。

教養科目の授業、倫理学では、それらを改めて、一人一人にたたき込むことが目的ではありません。また、それらについて一つ一つを詳しく取り上げて考え、答えを出すことが主眼となっているわけでもありません。

この授業では、所属する学部学科を問わず、これから先、大学で学ぶとはどういうことかを念頭に、倫理学の問題を素材として、今までに身に着けてしまっている「常識」を考えなおし、もっと別の考え方が無限にあることに気づき、そこからもう一度自由に、新しい答え、或いは新しい方法を、創造的に考え直し、探求することが目指されます。

今期の倫理学の授業では、『身体とアイデンティティ ジェンダー／セックスの二元論を越えて』（金井淑子編著 明石書店）をテキストに、なれ親しんだこの自らの身体に、もう少し正確に言うと、この自らの身体をなれ親しんだものとみなし、何の違和感も感じずに暮らしている「私」自身に、様々な疑問をぶつけてみるどころから出発しました。

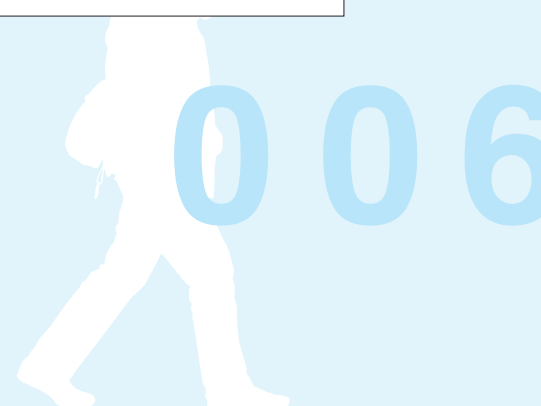
例えば、「顔」。なぜ、私は私の「顔」を知っているのか。これは、よくよく考えればおかしな話です。「私ですよ、私を覚えていませんか？」と言いながら、人差し指で自分の顔を指さす光景は、珍しくもなんともないと思いますが、その私の大切な顔を私は、いつそれが私のものだとわかるようになったのか。生まれてから一度も「私」は自分の顔を自分の目で見たことはな

いのに、何故、最初に鏡を見たときに、それが「自分の顔」だと分かったのか。

「顔」だけではありません。私は男性なのか女性なのか。非常にデリケートな問題ですが、でも、いつ私はそのどちらかであることに気づかされたのでしょうか。それはそんなに自然に受け入れることができたことだったのでしょうか。性についての問題もまた実は「私」にとっては、とても大きな問題であるはずなのに、個人的な問題として閉じられてしまいがちなゆえに、その論じられ方には偏りがあるどころか、未だに語ること、考えることすらしてはならないと思われる社会の「常識」が、私たちを縛っています。

このような、既に私自身の一部となってしまった、なれ親しんだ知識・考え・思考をいったん横に置き、私の中の既存の価値に、思考方法に、揺さぶりをかけ、そこから改めて自由に考えてみる。どのような学部学科であれ、それが、大学で学ぶ、自由で、創造的、発見的な学問の、すべての基礎ということができます。

とはいえそれはなかなか難しいことですので、まずは、自分自身の、身近な、なれ親しむことのできなかつたもの、不愉快な感じ、反感・違和感を今度は武器にして、その手近なところから反旗を翻してみるのがいいように思います。例えば、倫理学の授業で取り上げている「身体」についてなどから、デリケートでプライベートなあの感情から。この揺さぶりの思考は、大学から先のステージでもきっと大事なものであるはずです。



キャリア教育科目

「出会いと気づきのワークショップ入門」

キャリアTA 花岡美紀

「出会いと気づきのワークショップ入門」のTAを通して、参加している学生が徐々に打ち解けていく姿を目の当たりにしました。当初は、学部学科が異なる学生たちが集まっていることもあり、コミュニケーションを図ることが難しい様子でした。しかし、毎回班分けをすることによって、多くの人と話し合う機会が増え、雰囲気は良くなっていきました。それは、班が毎回異なるだけでなく、授業内容が趣向を凝らした内容であったため、学生たちは主体的に参加し、話し合う機会が多かったからだと思います。

授業は、毎回アイスブレイキングを行ってから始まるため、学生たちは授業に望む体制を整え、リラックスして参加していました。授業内容は、初回、自分を見つめなおすところから始まりました。初めて会う相手に対して自己紹介をするだけでなく、他者紹介をすることによって、より一層、他者理解を深めた授業となりました。

その後、授業のテーマは、学生たちの身近な問題から提起され、みんなで考えていくという流れとなりました。例えば、クリスマスが近い12月の授業では、「ジェンダーに捉われないおもちゃを開発しよう」という題の下、班ごとにおもちゃの商品開発を行いました。授業の導入は、おもちゃ屋のクリスマスの広告から、女の子に適したおもちゃと男の子に適したおもちゃの違いとは何なのか、また、おもちゃ屋と企業側の戦略とは何かについて、企業側からの視点でまず考えてみました。最後、プレゼンテーションを行うことによって、消費者、企業双方の考えに立つことによって、様々なことが明らかになり、とても興味深い授業でした。

また、恋人、結婚、家族といった様に人を介した内容が多かったことがこのワークショップ

の特徴だったと思います。学生にとって、自分自身を振り返ると共に、身近な存在である人のことを考える機会となったため、授業後の感想からは、自分自身の考えがしっかりと書かれたものが非常に多く見受けられました。

参加していた学生は、これから就職活動をしていく1～3年生が大半を占めていました。彼らにとって、この講義を受けたことは、就職活動の入り口になったと思われます。この授業を通して自然と、コミュニケーション能力、他者理解、プレゼンテーション能力、自己分析といった就職活動を始めるにあたって、重要な事柄を身につけられたのではないかと講義を終えてみて実感しました。

そして、この講義は、就職活動だけではなく、その後の学生たちの人生を考えるにあたってよい影響を及ぼしたと考えられます。それは、前述の通り、学生たちを取り巻く人について考える機会が多かったからです。そのため、就職をした後、人間関係や家族をつくっていくに当たって、柔軟な考えを持つきっかけとなったと考えられます。

自分自身の考えをしっかりと持ち、そして他者の意見を聞く姿勢を保つことは、これから彼らが歩んでいく社会において重要なことだと思います。今回、「出会いと気づきのワークショップ」に参加した学生たちが、自分と正面から向き合い、自分に合った職業を見つけ、様々な人と関わりながら自分を高めていけることを願っています。

キャリア教育科目

「教育社会学」

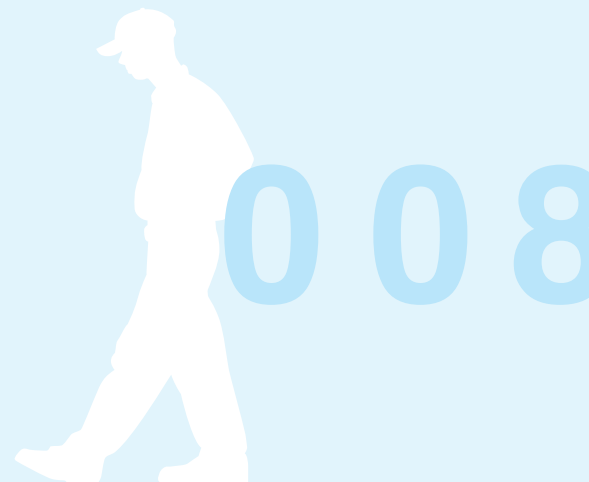
キャリアTA 山家真実子

教育社会学がキャリア教育においてどのような効用があるのかという議論をする前に、「教育社会学」という言葉を聞いて、具体的なイメージが浮かぶ人はどのくらいいるのでしょうか。教育学部で学ぶ学生でさえ、「何それ？」というのが本当のところなのではないでしょうか。教育社会学とは、教育事象を社会的に分析する学問である。これが単刀直入な答えです。しかし、この答えでもまだ難しいかもしれません。「社会的って何？」という疑問が湧くのも当然です。この「社会的」の部分を私なりの理解で噛み砕いて言うなら、「世の中の事象について当たり前と思わず、疑ってみる」となります。教育社会学が最も嫌う論調は「べき論」です。「学校はこうあるべき」、「子どもはこうあるべき」、「子どもはこうあるべき」、「教師は…」、「親は…」、……と、このように永遠無限の「べき」ループに陥っていきます。夢や理想を語るなどということではありません。ひとつの模範型をつくって、それにすべての人を統合していこうという姿勢に違和感が生じるのです。みんなが「右向け右」と言われて素直に従うとき、「なんかおかしいんじゃない？」と一石を投じるのが社会学の醍醐味なのではないでしょうか。

社会学が対象とする社会というものは、目には見えないものです。しかし、確実に存在しています。森の中にいるかぎり自分がどこにいるのかはわかりません。しかし、高いところから森を見渡せば全体像が掴めます。逆に、大枠は掴めても、細部を知らなければ物事を冷静に分析することは難しいのです。教育社会学は、ミクロな視点とマクロな視点を包括し、客観的、相対的に関係性や事象に向き合い、理解していくというアプローチを取ります。ある有名な社会学者は社会学を「関係としての人間の学」と言いました。私たちは、生きている限り否が応

でも他者とのかかわりの中で生きています。また、自分自身を知るということは他者を知るといふことの裏返しでもあるのです

ここまで、読んできた方は大体お分かりになったと思いますが、自分自身のキャリアを考える上で、教育社会的視点は大きい有用だといふことが出来るでしょう。それは、キャリア＝職業という短絡的結びつきの発想ではなく、ライフコースについて長期的展望に立って考えるときに初めて見出せるものです。他者とともに生きていくその過程こそが、キャリアを築いていくことでもあるのですから。



キャリア教育科目

「調査技法B」

キャリアTA 高瀬真太郎

「調査」という講義テーマを聞いて何を思い浮かべるだろうか。各々にイメージした「調査」は恐らく同じではないはずである。それは私たちの社会では様々な調査が行われているからだ。内閣の支持・不支持を問う「支持率調査」、男女が探偵に依頼をする「浮気調査」、新聞などでよく目にする「調査捕鯨」などがある。ちなみに私の頭の中に浮かんだものは、2番目の「浮気調査」である（これを講義で取り上げたら人気の講義になるであろうし、実習が楽しみになる）。このように日常的に多くの調査が行われており、我々がその調査対象者となることもあり得るのである。身近な例で言うと、大学の講義内容に関するアンケートが挙げられる。分かりやすさや面白さなどの講義内容について学生が評価を行う。そしてその結果を基に「講義内容を学生にとって分かりやすくするためにはどうすべきか」「学生が求めていることは何か」などを分析する。このように調査は単にデータのみを集計することよりも、その先にある特徴や要因を知るためのものなのである。しかし、安易に知るといっても、どのようにしてその特徴や要因を明らかにするのであるか。その疑問を分かりやすく教えてくれるのが本講義である。情報基盤センターの教室にあるコンピューター（SPSSという統計ソフト）を操作して、実際に統計的な処理を教わる。

それでは本講義がこれからの学生生活や社会人生活でどのように役立つのかを説明しよう。まず学生生活において、学生は4年生になると必ず卒業論文を執筆しなくてはならない。そこでアンケート調査を実施する場合には、その結果から得られたものを分析することが必要になる。つまり、先述した通り、結果だけで調査は終了しない。その結果から何が読み取れるのか、何が言えるのかということが大切である。調査

方法（内容）によって分析方法も変わり、それぞれに合わせた分析方法が必要となる。そのときに役に立つのが本講義内容である。統計処理に必要な知識を教えてくれる。更に、最近では当たり前になった統計ソフト（SPSS）の使い方を初心者でも分かりやすいように説明してくれる。統計という言葉を目にすると、「基礎知識がなければ無理ではないのだろうか」という声が聞こえてきそうだが、決してそのようなことはない。基礎知識が無くとも、比較的解りやすい問題から応用まで丁寧に教わることができる。また、毎回課題提出もあり、先生が学生の理解度に応じて配慮してくれるところも、本講義の良さである。私自身、本講義で初めて統計処理を行ったのだが、容易に理解することができた（もちろん予習は行いましょう）。

さらに本講義で学んだ内容は社会人生活においても活かす事ができる。特に接客業や営業などの仕事は、お客様のニーズが売上げと関係している。例えば、ある保険会社が発売している商品があるとする。その商品を集計すると、売れているものとそうでないものが見えてくる。売れている商品には共通している特徴があるはずである。個々の商品の関係性を見ることによって、お客様のニーズを把握でき、商品開発に活かすことができるのだ。

このように本講義は学生生活の集大成である卒業論文や社会人生活においても活かすことができるものである。納得のいく卒業論文を作成し、社会人として充実した生活を送るためにも調査技法を学ぶことは大切なことであると思う。

キャリア教育科目

「世代の多元性」

キャリアTA 高瀬真太郎

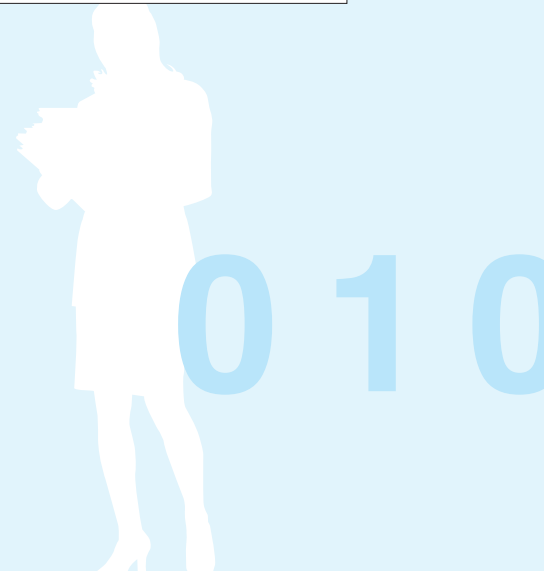
あなたは定年退職後の生活を考えたことはあるだろうか。大学では専門分野ごとに将来活かせる教育（横浜国大では教育や経済・経営、工学など）を教えている。しかし、仕事を退職した後の老後に、「新たな人生のスタートを切るための教育」はほとんど行なわれていない。それを教えてくれるのがこの講義であると思う。2007年問題（いわゆる団塊の世代の一齐退職）によって多くの団塊の世代が新たなスタートを切っている。だが皆一様ではなく、それぞれ異なった価値観のもとで新たな人生を築いている。

団塊の世代は、1947年（昭和22年）から1949年（昭和24年）の3年間に生まれた人たちを指している。この世代の人口は700万人で、2006年の出生数が109万人であるからいかに団塊の世代の人口が多いのかが分かる。ちなみに「団塊の世代」という言葉は、作家の堺屋太一が1976年に出版した小説『団塊の世代』で名づけたものである。この世代の特徴は、戦争を体験していない初めての世代であるとともに、学生運動を盛んに行なったことや日本の高度経済成長を支えたことである。彼らは仕事一筋でこれまでを過ごし、定年退職を機に叶わなかった過去の夢を今まさに実現しようとしている。授業ではその定年退職後におけるそれぞれの生き方に焦点をあてて講義をしている。これから授業の中で取り上げられた話を少し紹介しようと思う。

鈴木政孝さん（設立当時62歳）は日本IBMを定年退職後に、コンピュータ関連の知識を持つ仲間と共にNPO（Nonprofit Organization）法人「イー・エルダー」を立ち上げた。企業で不要になったパソコンを学校や福祉団体に寄贈して、パソコンの再生作業を障害者が働く作業所に委託する仕組みに取り組んでいる。だが他のNPO法人とは少し異なる。それは「事業型NPO」で

あること。つまり、しっかりとした事業計画を持ち、赤字を出さない（利益を確保する）ということである。これにより開店休業することもなく、活動を続けていくことができるのだ。だが、設立当初は「金儲けだ」「企業とどこが違うのか」などの声も多く、講演をしてもまったく質問もなく、冷たい視線を向けられていたという。それでも健全な社会的事業を継続していく中で、今日では講演の後に行列ができるまでに至っている。鈴木さんのお話の中で特に印象的だった言葉がある。それは、「高齢者が気持ちだけは社会を支える側、もしくは生産者側、あえて言えば税金を払う側に立ちたい」というものである。私はこの言葉から今までの高齢者像を覆すような「若さ」や、定年後もまだまだ社会に貢献することができるのだという「意思」が感じられた。

このように定年退職して終わるのではなく、そこから新たな人生のスタートが始まるのである。これからの高齢者は私たちが思い描いている高齢者像とはかけ離れた、それぞれの持つ異なった価値観によって人生計画を選択することができる。若い頃実現できなかった夢に挑戦する人もいれば、社会に貢献するためにボランティア活動を行なう人もいる。あなたなら、どのような人生設計を選択するのだろうか。この授業で一緒に定年退職後の将来を考えるのもいい機会だと思う。



キャリア教育科目

「高齢化社会の行方」

キャリアTA 高瀬真太郎

「高齢化社会」と聞いて何を思い浮かべるだろうか。多くの人が介護や病気、年金生活など明るいイメージではないのかもしれない。実際に、テレビなどでは病気がちで寝たきりの老人や苦勞して介護している家族などが放送されている。だが一般的に思われている高齢者像と現実はいぶ違うところが多い。それを教えてくれるのがこの授業であると思う。

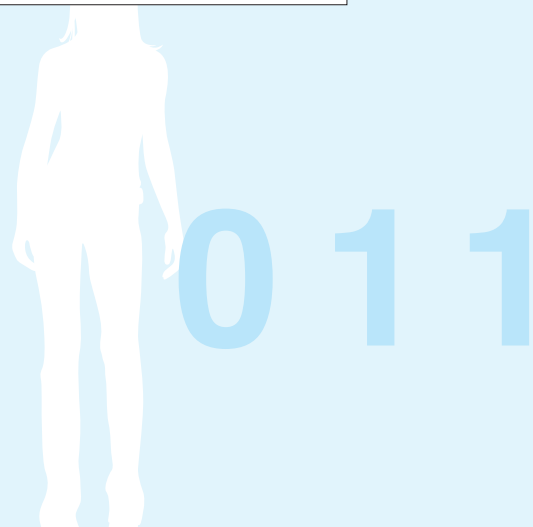
2007年の高齢社会白書によると、日本の高齢者（65歳以上）人口は約2660万人となり、総人口に占める割合（高齢化率）は20.8%となった。さらに2055年には40.5%に達すると予測されている。つまり2.5人に1人以上の割合の人が65歳以上の高齢者なのである。このような話をすると数字だけでは想像しづらいかもしい。だが私が日常的に利用している横浜市営地下鉄においてもそれを感じることができる。通勤ラッシュの時間帯には会社員や学生が大半であるが、少し時間が過ぎると多くのお年寄りが利用していることが分かる。（そんな横浜市営地下鉄も2003年12月より全席を優先席にしている）

また、死亡率の低下に伴って平均寿命（0歳平均余命）も伸びている。2006年度の簡易生命表によると、日本人の平均寿命は男性が79.0歳、女性が85.1歳であり世界でも上位に入るほどの長寿である。1955年には63.6歳と67.7歳であったから、約50年間に平均寿命は15年、女性では17年伸びたことになる。このような時代において問題になるのが、高齢期の生活をどのように形成していくのかということである。今までは定年後のことをあまり考える必要もなかったが、寿命が伸びたことによって改めて人生設計をしなければならなくなったのだ。都心から離れて田舎暮らしをするのもいいし、趣味のことに熱中したり、新たな教養を身につけるのも老後の生活を豊かにしてくれる。このよう

な様々な選択肢がある中で、実際に高齢期を迎え新たな人生のスタートをしている人を授業の中で取り上げている。その中で特に印象的であった人を紹介しようと思う。

しいのみ学園園長の昇地三郎さん（101歳）は、趣味で中国語を勉強しており、忘れたらすぐに辞書で調べることをしている。中国語を学び始めたきっかけは、「中国の大学で講演をする機会があり、通訳を通さず自分の言葉で相手に話したかった」という思いからである。私の日常生活を見たら怒られてしまいそうである。また、学園の園長としても生徒たちが喜ぶようなおもちゃを作っている。ここに取り上げた以外にも、趣味の将棋や運動を楽しむ人、何歳になっても生涯現役で働き続ける人など日々を充実して生きている高齢者が多いことに改めて驚かされる。

昔は人生50年であったが、今は人生80年である。定年退職をして終わりではなく、これから新たな人生のスタートであるという考え方が大切である。これからの高齢者は私たちが思い描いている高齢者像とはかけ離れており、それぞれの持つ異なった価値観によって生活スタイルを選択することができるのである。60歳を過ぎた自分自身を想像することはなかなか難しいかもしれないが、早いうちから、老後を幸せに充実して暮らしている人を見ることは、自分自身の参考になる良い機会だと思う。この授業で将来の人生設計と一緒に考えてみませんか。



キャリア教育科目

「地球環境学への招待」

キャリアTA 篠原洋平

環境問題は難しい。一般的にある問題の難しさは複雑さに起因する 경우가多く、環境問題についても同様のことが言える。温暖化、酸性雨、オゾン層破壊、廃棄物処理、多様性の消失、水・大気環境の汚染、化学物質…と問題の種類を挙げるときりがない。さらに各問題は相互に関係している場合が多く、その被害は様々な形で生じる。

近年話題になっている地球温暖化についても、やはり複雑な問題である。温暖化の要因をすべて把握しさらにそのメカニズムを正確に理解することはほぼ不可能である。よって必然的に温暖化は不確実性を内包しているのである。また温暖化は環境問題の中でも特に多くの事象と相互に影響し合っているため、その被害も対策法も極めて多様である。加えて影響範囲が地球全体に及ぶため、温暖化による国や地域の利害関係は複雑である。極めて複雑な問題であるにも関わらず、テレビ等のメディアではその原因・仕組み、影響及び対策法があまりに単純化されすぎているように思われる。しかしながら様々な場面で盛んに取り上げられているため、視聴者は自ら学習することなしには体系的な知識を得ることが出来ず、結果形成される環境観には大きな偏りがあるように思われる。

本学の地球環境課程に入学してきた生徒についても同様のことが言える。学生の多くは入学時に環境に対して問題意識を感じ、学習に対するモチベーションは高い。しかし環境問題に関して体系的に学習する機会は、講義を通じて得ることは少ない。また自分の生活及び進路と環境問題との結びつきも感じにくい。結果として環境問題への興味は低下してしまう。また環境問題の持つ複雑性を知らないが故に、地球史から見た温暖化に関する知見等環境問題に対する科学的な懐疑説を耳にした際に、大きな衝撃を

受け、環境への問題意識が低下してしまう場合もある。以上が本課程の卒業生かつ本講義のTAとして私が感じたことである。

環境問題に関して体系的な知識を持ち、自らの環境観を形成することは困難である。よって、まずは環境問題が不確実性を内包する極めて複雑な問題であることを認識することが必須である。自らのキャリアをデザインする際に、環境問題に強い興味を持ち、何らかの形で貢献したいと考えている人ならばなおさら、まず環境問題の抱える複雑性を認識する必要があるだろう。複雑性（≒多様性）を認識した上で学習を続けることで、問題解決に必要な広い視野と柔軟な思考を習得することが可能になるだろう。表題講義は、前述の学生が抱える問題に対処するため一昨年度から開講された、地球環境課程一年生の必修の授業である。形式は、本課程に属する教員及び大学院の協力教員が自分の研究内容と環境問題の関係性について語る、オムニバスの授業である。教員の専門分野は化学、地学、生物であり、またそれらの分野内でも研究内容は極めて多様である。そのため本講義は環境問題の多様性を感じさせることで、これから環境問題について学ぼうとする学生をまさしく地球環境学へ招待することが可能である。

本授業がこれからの学生生活及び就職活動等において与える影響は極めて大きく、学生をキャリアデザインのスタートラインに招待するために必須の授業であろう。



キャリア教育科目

「人間と地球社会」

キャリアTA 角田 信

「あなたは差別主義者ですか？」と聞かれて、「はいそうです」と答える人は殆どいないでしょう。そんな質問自体が心外だと思われるかもしれません。そして実際、この質問に不快感を覚える殆どの人は、差別をするべきでないと思っておりしないように心がけてもいるのでしょう。ですが、だからといってそのような人々が本当に差別をしていないかというのは別の問題です。むしろ多くの差別を生み出しているのは、そのような自分を差別的だと思っていない人々が無批判に受け入れている対立構造にあるのかもしれない。

「男／女」「子供／大人」「自然／人工」「正常／異常」「異性愛／同性愛」「西洋／東洋」など、世の中には多種多様な対立構造があり、差別とはこれらから生み出されるものであるともいえます。先ほどの質問を否定的に考える人でも、これらの対立構造そのものには疑問を持ったことがない人が多いのではないのでしょうか？しかし、これらは本当にそれほどわかりやすく対立しているのでしょうか？というより、本当に分けて考えることが可能なのでしょうか？これがこの講義のテーマです。このテーマにそって毎回違う教員がそれぞれの専門分野から講義を行います。（これは結構贅沢な事なんです）

当然ですが、専門分野が違うので教員によって切り口は大きく異なり、教員ごとに取上げるものも、西洋史であったり、精神病理学であったり、ジェンダー（社会的性差）であったり、マスコミであったり、文学であったり、それこそ多種多様であり、様々な視点からこのテーマを掘りさげます。講義毎に切り口が変わるので目が回ってしまうかもしれませんが、その過程で自分の興味を持てる分野を発見できるかもしれないのも、この講義の楽しみといえるかもしれません。

さて、最後になりましたが、「この講義がキャリアデザインにどう役立つか？」と問われると、返答が難しい事は認めるしかありません。少なくともこの講義を取ることで即就職が有利になるとか、非常に評価の高い資格になるわけではありません。しかし、では逆にキャリアデザインであるとか、キャリア教育であるとかそもそも何なのでしょう？この点に関して、はっきり自分の意見を答えられる学生は意外に少ないようです。この講義が問題にしているのは、まさにそのような漠然と受け入れられている枠組みについて考えることであり、この講義を受けることで、自分にとってのキャリアデザインが何かという答えを見つけ出す手がかりになるかもしれません。



キャリア教育科目

「教育実地研究（国語）」

キャリアTA 黒澤朝子

「では、今日から『大造じいさんとガン』を読み始めます。みんな教科書を出して。」ガヤガヤと授業の準備を始める子どもたち。さて、あなたはこの後にどんな導入（授業を始める前に子どもの意欲を引き出す）をするだろうか。どんな発問（子どもたちに問いかけること）をするだろうか。どんな板書（黒板に書くこと）をするだろうか。

教師になるにはもちろん、教育実習をするには、これらを具体的に思い浮かべられる必要があります。でも2年生の段階で、それができる方は少ないでしょう。そこで、こうした教師になるための土台作りを、「教育実地研究」を通してしてもらえたら良いと思います。

例えば、平成21年度の講義では「板書の仕方」「ノート指導」「説明的文章の指導方法」「文学的文章の指導方法」「学習指導案の書き方」などについて考えました。すると、今まで、受動的に受けてきた小学校、中学校の授業の一つ一つに教師の意図があったことに気づきます。そういった、教師の仕事に対する意見を出し合う中で、学生の皆さんが考えを深めていく様子をうかがうことができました。

同様に、国語の授業についても、考えを深めていきます。例えば、教科書の文章を段落分けする際、教師はどのように指導したら良いでしょうか。多くの方は「この段落分けが正しい」と、一方的に指示された経験があると思います。しかし「教育実地研究」では、観点によって様々な段落分けができる、ということを経験した学生が身をもって感じていました。「段落分けは、根拠が示されれば、どの分け方も正しい。教師が段落分けを示すのは新たな視点を子どもに与えるため。」との、まとめを聞いて、私を含む多くの学生の方が、段落分けに対する認識を新たにしたいと思います。

いざ授業をするとなると、自分の受けた授業

を必死に思い出して、昔の授業の再現をしがちです。ですが、自分の世代が教わったことをそのまま次の世代に教えるだけで良いのでしょうか。日々変化する社会に対応する力を子どもが身につけるためには、次の世代に対応した新たな授業が必要になると思います。国語の授業に対する考えを深め、自分のイメージを二転三転と変化させることで、新たな授業に近づくことができるでしょう。授業に対する認識を深めることも「授業実地研究」が担う重要な役割だと思います。

そして、授業に対する認識は理論から、実践へと広がります。理論を通して培ってきた視点を以て、横浜附属小学校の授業を見ると、教師は何を意図しているのか、予想しない子どもの発言にどう対処しているか、板書の速さはどのくらいか、など新たな疑問が浮かぶかもしれません。そうした実際の指導の難しさを、大学に戻って改めて考え直すことで、より実用的な知識となってみなさんの中に定着することでしょう。

以上まで、教師になるための土台作りの話をしてきましたが、この「一つのことについて考えを深める」姿勢は、教師に限らず、多くの職業で求められることだと、私は思っています。それは、一つのことを追究できる人は、他のことにも追究する姿勢を生かすことができるからです。教師にならない方でも、きっと自分のキャリアに役立つ時間となるでしょう。

今まで様々な所で授業見学をさせていただきましたが、面白い授業をする先生は「教師の仕事とは何か」を語れる先生だと、思うようになりました。国語科教師を目指すみなさんも、ぜひ「教育実地研究」を通して「教師の仕事とは何か」について悩み、考えを深めてみてください。その考えた時間は、皆さんのキャリアを支える大きな糧となって、将来に還ってくるでしょう。

キャリア教育科目

「教育実地研究とキャリア教育」(音楽領域)

キャリアTA 橋本千春

教育人間科学部学校教育課程において、2年生に必修として課せられているのが、この教育実地研究という科目です。私も学部生だった頃にこの授業を受講していました。思えば、今私が教員を目指しつつ、しかもっと深く広い知識を得ようと大学院で学び続けているのは、この授業で学んだことや経験したことが、その原動力の一つになっているのかもしれませんが。キャリアTAとして再びこの授業に関わったことで、新しく見えてきた授業の意味や位置づけについて、キャリア教育という視点から振り返ってみたいと思います。

大学2年生…教育実習が近づいてくると、自分は本当に教師になりたいのか、と自分に問い直してみたり、本当は何が向いているのだろうか、と自分を見つめ直したりする事があると思います。私自身もそうでした。教職を強く志望している学生にとっても、実際に児童と触れ合う機会はそれまでに少なく、教師というものに漠然としたイメージがあるに過ぎない人が多いはずです。こうした時期であるからこそ、実感を伴うフィールドワークを中心とした活動は、自分のキャリア・デザインを意識し始めるきっかけになるのではないのでしょうか。音楽専門領域の教育実地研究では、こうした様々な思いを持った2年生の学生達が、まず対話や授業観察を通して子ども理解の視点を養うことを目指します。さらに、学生が主体となって音楽会を企画し、小学生と交流を図るという活動もこの授業の中心になっています。この交流音楽会では、「児童が参加して音楽表現をする場」という条件が与えられるため、どうしたら子ども達が夢中になるか、興味や表現意欲はどのような場面で喚起されるのか、などと学生は試行錯誤し、子どもを巻き込むストーリーを考え出します。この音楽会の成功に向けた活動は、キャリア教育

の基盤ともなる大切な要素が含まれていると私は考えます。その一つが他者との関わり合い、関係作りです。短い時間の中で子どもの心をつかむには、反応を予想して表現を工夫し、時には子どもの気持ちになることも必要です。もちろん学生同士のコミュニケーションも欠かせません。他者の考えを受け入れ、討議を重ね、自分の意見を明確に伝える術も必要になってきます。今回の音楽会では、学生のキャラクターや得意分野が存分に活かされ、実に生き生きとした姿を見ることができました。それができたのは、学生同士がお互いを多面的に理解し、良さを認め合っていたからに他なりません。子ども達、学生ともに満面の笑みで幕が閉じたのは、最後まで妥協せず、真剣に取り組み続けた結果でした。

「教えられる」立場から「教える」立場へ。その移行期において、「職業観」とはっきりしたものまで掴めなくても、教育実地研究はキャリア・デザインを意識し形成していくきっかけの場として重要な役割を果たしているのではないのでしょうか。それは教職志望者に限らず、自分を見つめるすべての学生にとって、大変意味があることであると私は考えます。



キャリア教育科目

「教育実地研究」(教育基礎)

キャリアTA 片桐脩平

教育実地研究は学校教育課程において必修の授業です。

この教育実地研究という授業は、学生にとっては教育実習に臨むための準備段階としての役割を担っています。教育実習が自分のキャリアデザイン上で重要なイベントであるのは言うまでもありませんが、その準備段階である教育実地研究も円滑に教育実習に入るために大切になってきます。

実地研究は大きく2つの内容となっています。ひとつは、教師の役割や学校の仕組みを理屈として学ぶもの。もうひとつは、実際に学校に行って現場の教師の姿を見て学ぶもの、です。「実地」研究である以上、後者の方がよりメインであるのは言うまでもありません。

教育実習では形式としては実習に入ったその日からもう「先生」としての振る舞いを要求されます。その前に、「生徒」でも「先生」でもない立場から学校を体験するのは、まさに実習の前段階として価値があるのではないのでしょうか。この、生徒でも先生でもない、中間の立場は実地研究以外では体験しづらいものです。ここで、この中間の立場でしか学べないこと、中間の立場だから学びやすいことを挙げてみたいと思います。

①授業見学の方法

実地研究では、同じ授業を受講している仲間、大学で授業を担当している講師など多くの人と同じ授業を見ます。その中で、授業を見終わった後の討論や他人の感想を聞くことは、相手の意見と自分の考えを比較する機会を得、自分の授業の見方を考え直すことにもつながります。

②授業が行われる環境

また、学校、という場に行く機会は、残念ながら大学の間でそう何度もあることではあ

りません。実地研究という「見る」ことがメインの活動の一つである場では、学校という環境を見るいい機会でもあります。机の配置はどうなっているのか、掲示物はどのようなものが掲示してあるか、学校の教室はどのような並びになっているのか、など視点は多く考えられるでしょう。

③実地研究では1人を集中してみることができる

私としては、最も有益なポイントの一つであると考えます。実習では教師1人に対して、子ども30人ほどが基本になります。そうなれば1人につききりで教えることは難しくなります。しかし、実地研究では1人につききって、その子どもの理解の過程を見ることができます。教師のどのような問いかけやアドバイスが、子ども1人の理解にどう影響を与えるのかを見ることは教師になるにあたってとても役立つことではないのでしょうか。

④自分の教育体験と現在の教育との違い

また、自分の受けてきた教育との違いを見つけることも有益なこととなるでしょう。実習になれば指導する立場になるので、現在の学校現場が自分を育ててくれた学校現場とどう違うのかを認識していないと実習になってから戸惑うことになってしまいます。

以上、4点挙げてみました。このように実習に入る前に少しでも学校と言うものについて自分の枠組みを広げることができるのはこの授業の大切なポイントであると思われます。教育実習の前段階として「学校を見る」この授業は、実習の過ごし方を考える上で、ひいては自分の生き方を考える上で、有意義な時間になるのではないのでしょうか。

キャリア教育科目

「教育実地研究」(心理発達)

キャリアTA 岡崎ちひろ

「教育実地研究」は学部2年次に開講される授業であり、専攻ごとに担当教員、内容、開講時期は異なる。

この授業では、担当大学教員による講義に加え、大学附属の小学校・中学校・特別支援学校に、観察者として参加する。教育実習とは異なり、学生は授業をすることはなく、大学教員から課された課題を中心に、自らの視点をもって授業を観察・分析する。この授業は言うならば、教育現場に関する知識を主に講義から学ぶ1年次の「基礎実験」と、実際に教育現場に教員として参加する3年次での「教育実習」のつなぎとなる授業である。

私がティーチング・アシスタントを務めた教育実地研究では、小学校・中学校・特別支援学校を、それぞれ1回ずつ訪問した。学校訪問前に担当大学教員から課題が与えられ、学生は観察後、課題への意見をまとめた。その意見は個人の意見としてとどめられるのではなく、グループ討論や発表を通して共有され、さらに担当大学教員によるフィードバックが行われた。

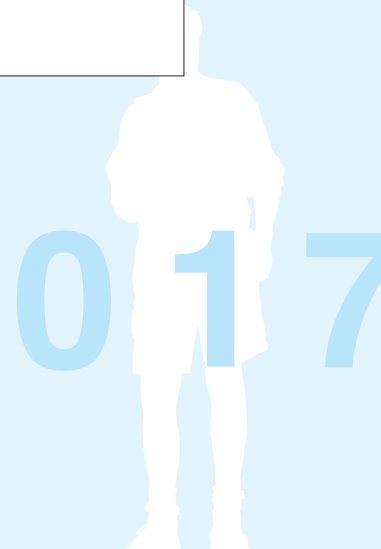
課題は「授業、活動を観察し、学習内容への動機がいかにか喚起されているか、具体的な授業のくふうの観点からまとめる」や「学習事項の生活への応用がいかにか目指されているか見て取る」等、学生が教員となる上で有用な知見となるように設定されていた。観察後の講義では、具体的な場面を挙げながら「教員が児童の発表をまとめ、全体に伝え、発表した児童を褒めることで、多くの児童が積極的に発表していた。自分も教員になったら、取り入れなければと感じた。」等、活発な意見交換がなされた。

教育現場への参加は、受け入れ側の学校に時間や場所の設定等、手間をかけてしまうため、容易に行うことはできない。しかし、教育実習で突然教育現場に参加することは学生にとって

大きな負荷となる。事前に授業の様子や、教員と生徒の関わり方を観察できることができれば、それは学生にとって大きなメリットとなる。この教育実地研究は、大学教員や受け入れ側の教員の支援を受けながら教育現場を観察できる数少ない機会であり、教育実習を来年度に控える学生にとって、有意義な授業である。

また、教育実地研究では、教員としてではなく観察者として客観的に児童・生徒を観ることが出来る。このように純粋な観察者として学校に参加する機会は、教育者として学校に関わる上で、そうそうない。例えば、教育実習では、授業や学活、休憩時間の全てにおいて教員として児童・生徒と関わらなければならない。また、教員として勤務し始めれば、常に教員の立場に立たねばならず、授業研究会等の場面でも、他教員と議論を交わす立場から授業を観察しなければならない。学生として教育現場に参加した彼らは、「もっと児童の意見を聞いてあげればいいのに」「どうしてこの指導法をとるんだろう」といった純粋な感想や疑問を持った。しかし、近い将来、実際に教壇に立ってみると自分が思っていたようには振舞えないことに彼らは気づくだろう。このギャップは彼らが教員として成長していく上で重要な手掛かりとなりうる。

教育実地研究は、教員を目指す学生にとって、教育実習への準備段階として有意義だけでなく、教員として成長していく上で有用な知見を得られる貴重な授業である。



キャリア教育科目

「消費生活論」

キャリアTA 金文淑

「消費生活論」の講義は月曜日3限に開講されました。

講義では、「消費者問題の現状」、「消費者問題の変容」、「企業活動と消費者問題」、「消費者取引の基礎—契約の一般原則、不公正な契約」、「クレジット社会と消費者」、「今日の多重債務者問題 ～借金チャラになる?!～」、「情報化社会と消費者問題」、「被害救済とADR（裁判外紛争処理）、団体訴訟」、「消費者政策と市民社会形成」など、幅広い問題を扱いました。

講義は、テキスト、レジュメ、新聞記事、参考プリントなどを中心に進められました。毎回、講義の終盤には、受講生が講義を受講しての意見や感想などをまとめる時間が設けられていました。また、「消費者庁設置に関する新聞各紙の記事を読み、論旨をまとめ、自身の批判的意見や主張を明解に論じる」といった内容のレポートも課されました。

毎週行われる講義の中で、私自身も強く印象に残っている講義があります。それは、現役で活躍されている弁護士さんや、TOTOのCS担当者、消費者関連専門会議ACAPの事務局長など、ゲストティーチャーとして招かれた方々が行ってくださった講義です。

受講生にとっても非常に貴重な時間になったことと思います。また、第5講目「消費者取引の基礎Ⅱ—不公正な契約—」という内容の講義は普段と異なり、「現代日本の社会でよく発生する消費者取引問題」について先生がいくつかの質問を問い掛け、受講生に答えとその理由を聞き、先生と受講生がディスカッションしながら授業を進めました。

本講義を通じて、受講生は未熟な消費者かもしれませんが、被害の予防などを講義で学び、そして、被害に遭っても落ち着いて解決する方法を身につけられた講義になったと思います。

受講生は消費者としての意識を一層高めたと同時に、今後契約などを行う際には、慎重な対応で臨むことができると思いました。本講義で学んだ内容は、社会人になってはもちろんのこと、生涯において活かしていけることでしょう。



キャリア教育科目

「学外活動・学外学習Ⅰ（社会全般のボランティア）」

キャリアTA 山下太一郎

近年は上向きと言われる新卒雇用は数年前まで氷河期を迎えていた。その時代を、メディアを通じて刷り込まれてきた現代の大学生にとって、就職や働くことに夢を抱くことが難しいという見解も頷ける。その彼らにとって学外活動とはどのような存在であるべきなのだろうか。

そもそも大学生が学内において講義、演習で学んだことを実習という形で表面化される機会は少ない。専門的な内容の講義であればあるほど、学びの深さゆえに現実離れしていつてしまう。実社会との関わり合いを見出すには、講義で得た知識と社会の交錯する瞬間を見るのが一番である。そこで、大学生に自分が今学んでいることが社会においてどのような役割を果たしているのか、また、どのように関わっているのかを実感してもらう必要がある。

また、入社後の新卒者にも変化が起きている。就職後、数年で会社を去る・変わる若者が増加している。この背景には、若者の意識変化の他に、学生と企業の関係もある。近年の第三次産業の発達により社会は急速に多様化してきている。しかし、働く場所を選ぶ段階になっても学生にとってその全体像はイメージし辛く、それゆえ自分の興味のある業種を見つけるとなるとさらに困難となる。そのため、学生の就職支援も徐々に発達してきてはいるが、その方法が明瞭とは言い難い。

そこで、現代の大学生にとって必要なことの一つに、職場を実際に見てみるということがある。一度実際に現場を見てみることにより、その仕事の業務にどのようなことがあるかを知ることができる。さらに、業務に自分の思っていたことだけでなく、その仕事の楽しさや面白み、また、辛いところなどをあらかじめ知ることができる。これは若者の早期転・退職への対策にもなり、それ以上に学生にとって有益なことと

して、自分の仕事観を確かめたり、磨いたりするきっかけとなる。この仕事観を磨くということは学生にとって非常に難しい。本やインターネットなどで職業の情報は得られることと、職場で実際に働いたり、働いている人と話したりすることには少なからず差があり、なにより現実味がある。これにより、自分のやりたいこと・興味も絞られ、また、自身の将来への展望も見出しやすくなる。

このように、学外活動の意味としては企業と学生との接点をもつということもあるが、一番大きなものとしては、学生自身がその活動を通して自分の職業観がどのようなものかを確認する場といえる。活動を通していく上で、自分には何が向いているか、さらには、将来自分は何をしたいのかということを考えていくことができる。就職活動への手掛かりはもちろんのこと、社会とつながるきっかけとなっているのである。



キャリア教育科目

「学外活動・学外学習Ⅱ（教育ボランティア）」

キャリアTA 小池健志

今日、就職後の早期離転職が依然として高い水準で推移しており、学ぶこと・働くことへの意欲や態度、職業観・勤労観の形成をめぐる各方面から様々な課題が指摘されている。

このような背景には、少子化による人口の減少等によって、大学等上級学校の入学者受け入れ枠が実質的に大幅に拡大するなど、学生の進路選択をめぐる環境が大きく変化したことが考えられる。こうしたことが、職業観・勤労観の形成をはじめとする学生の自立及び学校から職業生活への移行にかかる様々な課題を、これまで以上に顕在化させているのではないかと考えられる。

また、企業における社員研修や人材育成等の在り方も変化している。こうした中で職業人としての資質の育成について、学校教育に課せられる部分が大きくなっている。このような時代を生きていく上で強く求められるのは、変化に流されることなく、自立した個人として自らの将来を主体的に切り拓いていく力であり、その基盤となる意欲や態度及びこれらを根本において支える職業観・勤労観である。子どもたちの進路選択、とりわけ学校から職業への移行が、量的にも質的にもこれまでにない困難に直面している今日、学校教育において、子どもたち一人一人が望ましい職業観・勤労観をしっかりと身に付けることができるようにする取組の充実・改善が強く求められている。

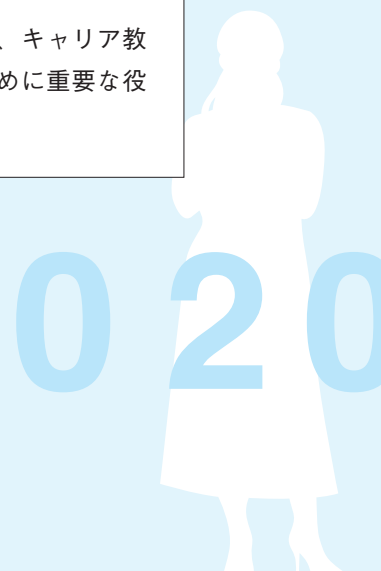
職業観・勤労観を養う一つの方法としてキャリア教育がある。キャリア教育とは、「望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識や技能を身につけさせるとともに、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を育てる教育」とある。キャリア教育での目標はいくつかあり、「大学におけるキャリア教育のあり方」では、学生が①社会や職業社会への「移行期」に

あたり、自らの将来・人生をおおまかにでもしっかりと設計できること（キャリア設計能力）②職業生活の中で自分が何を実現しようとするのか、職業に対してどういう意味づけをするのか（キャリア・職業観）③自分はどの道を歩むのか（キャリア・職業の選択）④そしてそのためには何をなすべきなのか（職業・専門能力）、などを明確にすること、ということが挙げられている。

一般企業を目指す学生は、インターンシップで、長期休暇に企業等で研修生として職業体験を行なえる。そこで、先ほど挙げた4つの目標を明確にすることは十分可能だと考えられる。教職を目指す学生にも、教育実習というものがあり、そこで職業体験を行なえるものの、実際に実習が始まると授業などに追われ、現場の教員の考えを聞き、学校の内情を知る時間はない。

教育ボランティアでは主に、教員の授業を補助することが仕事であり、実際に授業をするわけではないので、指導案も作成しない。そのため、空き時間も現場の教員の考えを聞き、学校の内情を知る時間もある。それゆえ、「社会や職業社会への「移行期」にあたり、自らの将来・人生をおおまかにでもしっかりと設計できること」、「職業の中で自分が何を実現しようとするのか」、「自分はどの道を歩むのか」、「そのためには何をなすべきなのか」などを考えることができ、目標を明確にできると考える。

担当科目授業は、教職志望者の、キャリア教育の中の4つの目標を達成するために重要な役割を果たしていると考えられる。



キャリア教育科目

経営学部ビジネス・キャリア教育プログラム

経営学部教員 井上 徹

経営学部ではビジネス・キャリア教育プログラムを実施しています。ビジネス・キャリア教育プログラムは、「啓発・学習⇄実践」という自ら考えて行動する主体的な学びを通じて、皆さんのビジネス・キャリア形成を支援するプログラムです。プログラムの概要は以下のとおりです。

ビジネス・キャリア教育プログラムの4つの柱

- ① **「気づく」**：経営者・創業者など、実業界からの多様な講師による講義形式の授業科目
→ 現在、「経営者から学ぶリーダーシップと経営理論」、「ベンチャーから学ぶマネジメント」の2科目を開講しています。経営学部インターンシップの前提科目であり、受講者数は300～400名です。これまで講演して頂いた方々と、授業の感想は、<http://www.business.ynu.ac.jp/contents/intern/>で見ることができます。
- ② **「磨く」**：自己学習・相互啓発によって、企画力・プレゼンテーション能力を高める授業
→ 講師と少人数の学生による自己学習・相互啓発的な形式で、各人がビジネス・プランを考え、ブラッシュアップし、プロジェクト化する授業、「マイ・プロジェクト・ランチャー」を開講しています。
2009年には、受講者が提案・実践した「横浜の野菜を使った一日地産地消レストラン」が、多数のメディアで大きく取り上げられました。上記URLで、新聞記事を見ることができますので、参考にしてください。
- ③ **「動く」**：インターンシップ。毎年20～30名の学生が実践を通じて学んでいます。

- ④ **「創り出す」**：ビジネス・プラン・コンピテスト：学生の創造性と企画力、プレゼンテーション能力を養うことを目的として、ビジネス・プラン・コンテスト Y1を開催しています。平成21度は、学生による実行委員会が運営主体となり、同窓会である富丘会の協力を得て実施しました。エントリーは27チームで、常盤祭期間中の10月31日に8ームによる決勝を行いました。このY1決勝で提案された企画の一つが商品化され、近く店頭に並ぶ予定です。平成22年度も常盤祭で決勝大会を行います。

また、平成21年度からは、実践的な科目の履修を中心とした副専攻プログラム「ビジネス・プラクティス」を設置しました。また、国大生なら誰でも参加でき、様々な情報を交換・発信できるキャリア教育支援SNS、Y-Career (<http://www.ynu-career.com/>) を開設しています。



キャリア教育科目

知能物理工学科のキャリア教育科目群について

知能物理工学科教員 大野かおる

知能物理工学科では、学生一人一人が独自の将来に対するビジョンを抱きながら興味をもって進んで学習に取り組めるように、次のようなキャリア教育科目群を設けています。集中講義では平成19年度の、ノーベル物理学賞受賞者の小柴昌俊先生他に続いて、平成20年度には、ドコモ・システムズ社長の谷公夫氏、脳科学者の茂木健一郎先生、ハーバード大学のNancy Selva教授や米国大使館William L. Brooks課長他、平成21年度には、日本物理学会会長の大貫惇睦先生、名城大学（産総研、NEC）の飯島澄男先生らをお呼びし、学生が熱心に授業に参加しました。その他の講義でも、企業の第一線で活躍されている技術者の方々をお呼びしました。平成20年度からは知物キャリア教育WEBシステムも稼働し、キャリア教育科目の電子ファイルによるレポート提出やキャリア・デザイン・ファイルのオンライン版として利用されています。それでは有意義な履修計画を立ててください。

【講義科目】

- ・教養としての先端物理科学（1年前期） 現代科学の幾つかの分野について、その分野を専門とする知能物理工学科所属教員がその先端的物理工学の研究についてオムニバス式に講義する。
- ・物理学と先端技術（2年前期） 技術革新の進む産業界の様々な分野から講師を招き、物理学が果たす役割について講義を行い、科学技術の発展に取り組む意欲と能力を養う。
- ・現代社会と物理学（3年前期） 様々な分野から講師を招き、物理学を学ぶ者として社会に何ができるか、何をすべきか、倫理観・安全性・創造性の考え方について講義する。
- ・総合応用工学概論（4年前期：共通科目）

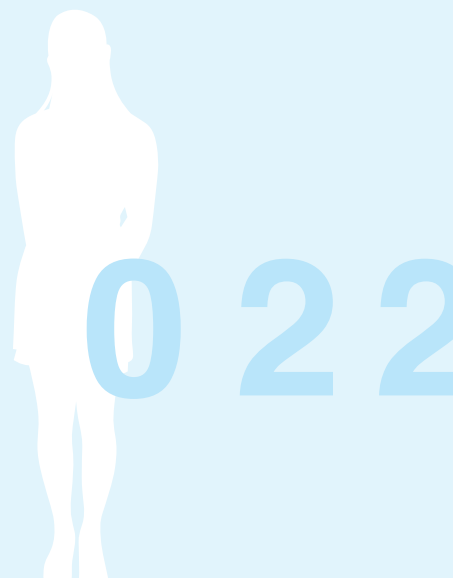
つの技術が成熟し広い分野へ応用されると、異なる分野間で工学の総合化がおこる。その基礎から応用までを解説する。

【実習科目】

- ・インベスティゲーション実習（3年前期） 特定のテーマを設定し、その内容を調査・研究（Investigation）すると共に、独自の見解を盛り込むことで発展的にまとめる能力を養う。
- ・プレゼンテーション実習（3年後期） 研究室に分かれて調査・研究を行い、その内容をクラス発表（Presentation）する。分かり易い表現方法、興味を喚起する発表能力を養う。

【集中講義科目】

- ・物理キャリアアップ（全学年） 著名な講師による各分野の最先端情報の解説により、物理学の創造的精神を養い、クリエイティブな起業家を目指すキャリアアップ教育を行う。
- ・学際性・国際性キャリア演習（全学年） デザイン、国際、環境など物理と異なる分野の日本人および外国人講師により、学際性・国際性の精神を磨くための講義、演習を行う。



キャリア教育書籍

『働きマン』書評

教育人間科学部3年(執筆時) 津田彩乃

『働きマン』は、2006年にアニメ化、2007年秋には、菅野美穂主演でドラマ化された安野モヨコ作の人気漫画である。

本作品は都会での仕事をテーマにした漫画であり、出版社で働く主人公・松方弘子に焦点を当てるだけでなく、松方以外の人物にも焦点をあて、その人物の仕事観を描いている。

働きマンを読んで、世の中には本当にたくさんの職業があることを知った。そして、その仕事へ関わる人達は、それぞれの考えや思いを持って自分の仕事へ取り組んでいる。そうした仕事観に触れることができるという点で、とても面白い作品だった。私自身、就職活動を控えているこの時期に、様々な職業、様々な仕事観に触れることは、良い機会になったと思っている。

松方は、自分の仕事へ真っ直ぐに全力でぶつかっていく。「男スイッチ」が入れば、寝食・恋愛は忘れ、仕事へ取り組む。彼女は、「仕事したなあ〜」と思って死にたい。」と述べている。登場人物の中には、そんな彼女を見て、「人生、仕事しかなかったと思って死んでいくのは嫌だ」と述べる人もいる。仕事へ対する価値観は、人それぞれで、何が良くて何が悪いとは言えない。だからこそ、彼らの価値観に触れることで、自分にとって「働くこととは何か!」、「仕事とは何か!」を考えさせられてしまう。

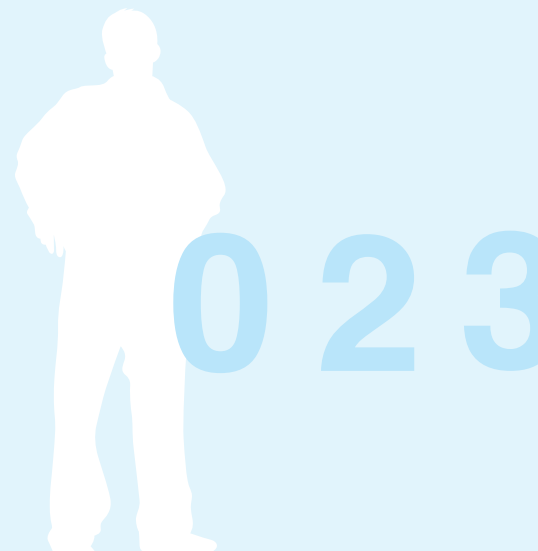
また、松方は29歳という年齢で、仕事に恋に、そして女性としての生き方に悩みをかかえながら日々の生活を送っている。

出版業界は他の業界と比べても、男女不平等があまり見られないという。女性にも、男性と同じように仕事が与えられ、女性が編集長になることも多々あるという。漫画を読んでも、編集者としての仕事は、すごくやりがいのあるものだという事が分かる。こうしたやりがいのある仕事をしているからこそ、松方自身、仕事

と女としての生き方の狭間で悩んでいるのだと感じた。

男女不平等があまり見られない業界だといっても、そこにはやはり女ならではの悩みがある。松方自身も、「女だから・・・」と思わせないようにするため、男以上に頑張って働く姿も見られる。反対に女だから良い目が見られる事もある。そうした状況下で、自分のやっている仕事について、女として生きることについてのジレンマに悩まされながら、それでも仕事に没頭する松方の姿はとても印象的だった。結婚して家庭に入る幸せもあれば、松方のように、仕事に没頭して生きる女の幸せもある。自分がどんな進路、職業を選んだとしても、そこには悩みや葛藤がつきまとうものだ。それに自分がどう向かっていくかが、自分の選んだ進路や職業よりも大切なのではないかと感じた。

『働きマン』は、仕事について、そしてその仕事を通して“生きる”ということ、考えさせてくれる一冊だった。



キャリア教育書籍

「自分の中の、当たり前を疑って」(『働くことがイヤな人のための本』書評)

教育人間科学部3年(執筆時) 小原裕矢

長い学生生活も終わりに近づいて就職というものが確実に迫ってきた頃、「まだまだ学生でいたい」というセンチメンタルな気持ちと、「働きたくないなあ。ああ、憂鬱だ。」という漠然とした想いに駆られた。そんな時に目にしたがこのタイトル。まさに自分のための本だと思ってさっそく読んでみた。読むことで、どうしようもない不安やモヤモヤ感はなくなるかもしれない、この本は自分にとっての処方箋になるに違いないと期待していたのに、それはあっけなく崩れ去った。

この本は働くことがイヤな4人の架空の人が著者と架空の対談をするというスタイルで、働きたくない原因や働く理由を説いている。4人のうち若いキャラクターは、20代半ばのひきこもり留年生と小説が書きたい30歳女性の二人だ。

ひきこもり留年生の働くことがイヤな理由は「自分の自尊心を守りたいから」。彼は快楽を追及したくも、仕事で大成功したくもなく、知的な仕事(作家のような)に就きたいと思っている。しかし、自分に才能が無いかもしれないということを知るのが怖いから、そういう仕事にチャレンジ出来ない。知的な仕事で成功する人は限られているし、自分にはズバ抜けた才能が無いことにも気づいているからより一層だ。また、だからといって好きでもない仕事に就く気にはなれない。二人目の女性の理由はこうだ。自分の才能で何かを作りあげたい。やりがいのない仕事はしたくない。たとえ、一生成功しない作品しか作れなくても満足である。しかし、このまま死ぬまでまともな作品を作れないのでは無いかと思うと怖くてしょうがない。これが30代女性の理由だ。残りの中年男性二人は若い頃に、特にやりたくもない仕事を選択した。そして、この年になってそのことを後悔している。

著者から若者二人へのアドバイスはこういったものだった。やりたいことをやった結果として人

生が不幸になったとしても、その人生を自分が愛せるならばいいではないか。「よく生きること」は、一流の仕事をする事と同義ではないし、幸福に生きることでもない。よく生きるためには自分の中の真実をめざすという態度が必要だ。

たとえばミュージシャンとして音楽を続けようかどうか迷っている人に対して著者が言いたいことは、余計なことを全て取っ払ったとき、一流であることは君にとって重要なことなのか? お金を稼ぐことは重要か? ということだ。考えた末に、「三流ミュージシャンのまま60歳を過ぎ、お金も無い。窓辺に寂しく佇む自分の後姿」を愛せようならば、やりたくない仕事をよりもやりたい仕事をする方が良いと言っているのだ。

正直なところ、はじめは著者の言っていることがまったくわからなかった。一流の仕事をした方が満足につながるに決まっているし、幸福でない人生なんて価値はない。また、人から認められることに意味がある。こういった考えが当たり前のように自分の中にあつたためだ。しかし、何度も読むことで著者の言うことがだんだんと掴めてきた。この本が問題にしていたのは「当たり前のこと」に飲まれることだったのだ。私達の多くは「当たり前のこと」を知らず知らずの内に納得している。一流の仕事につく=良い人生、人から認められる=良いこと、をいつのまにか当たり前だと思っていた私のように。良く考えてみるとそれらが当たり前である理由なんて全く無いのだ。だから、何が自分にとっての真実であり、何が自分にとって価値のあるものなのかを良く考えなければいけない。これが本書から学んだことだ。

正直一度では理解できないし、理解したとしても思考の無限スパイラルに嵌まることは必至。考えることが好きな人や自分について考えを深めたい人にはオススメだ。あ、就活には使えないと思う。

キャリア教育書籍

就職が不安なあなたへ (『就職がこわい』書評)

教育人間科学部3年(執筆時) 垣内洋介

「あなたは就職がこわい?楽しみ?」

そう問われるとき、多くの学生は前者と答えるのではないだろう。

私も、就職がこわかった。大学3年の後期にも差し掛かると、周囲が「シュウカツ、シュウカツ」と騒ぎ始めるが、そんな雰囲気にもまれるように就職活動を始めたくなかった。「こういう仕事をしたい!」と心から思ってから動き出したい。でも、アルバイトや日々の課題に追われているとなかなか「これだ!」と思えるものも見つからない。

そんな時に会ったのがこの一冊。本書はそういった漠然とした就職に対する不安、ひいては将来の自分に対する不安を取り除く一助になったことは間違いない。それでは、以下に印象的な箇所を引用しながら、本書の内容を紹介したい。

筆者は精神科医であり、大学教授でもある。また、大学において就職委員を務める中で直に学生と接してきた実体験をもとに本書は綴られている。「今の大学生に何をすればいいんだろう」という学生に対する真摯なまなざしは優しく、温かい。

さて、具体的な若者の心理分析に関する筆者の主張は以下のようにまとめられるだろう。まず、自己の評価が著しく低いということ。それでいて自分を特権的な存在だと思っているということ。前者に関しては、納得はいくものの国大生に限って言えばあまり当てはまらないのではないかと考える(強引ですが…)ので、あえてここでは後者について述べたい。特権的な存在とは、言い換えれば本書にも登場する「オンリーワン」の考え方のことである。「自分にしかできない仕事をしたい」「自分らしく生きたい」という思いのあまり、就職に前向きになれない学生が少なくないというのだ。このことに関しては第3章や第5章に詳しい。中でも第3章5項「就職と“自分探し”」は私にとって非常に興味深かったので以下で紹介する。就職活動に臨む際に語られることの一つに

「自己分析」がある。「自分の夢は何か」「どのように働きたいか」といった問いを自らに投げかけ、無数にある仕事と照らし合わせながら就職活動に取り組むのである。しかし、それらの問いを真剣に受け止めるあまり、「『仕事とは何か』『自分にとって働くとは何か』などとむずかしく考えすぎて、なかなか具体的な就職活動に至ることができない学生がいる」というのである。そして、このように観念的に問題を捉えてしまうことで思考が内面に向かい、就職についてではなく自分自身について悩んでしまう、というのである。この論理には唸らされた。恥を忍んで告白すると、私自身がその一人なのである(苦笑)。これはほんの一例に過ぎないが、本書では様々な思いにより就職から遠ざかる学生の実例が数多く紹介されていることは前述した通りである。自分に当てはまるかどうかはわからないが、就職にわずかでも不安がある方であれば、少なくとも参考にはなるはずである。

上記の若者の傾向に加え、筆者は親への依存を指摘していることも本書を語る上で欠くことはできない。今の家族が永遠ではないということを、酷な言い方であることを自覚しながらも綴っている。働かないと食べていくことはできない、という至極当たり前の理屈であるが、このことは就職を考える上で、我々学生だけでなくその保護者も長期的なビジョンを展望して考えておく必要があるだろう。

以上のような若者の傾向を踏まえ、筆者は第6章「打つべき手があるとすれば」と題して語っているが、残念ながら紙数が尽きてしまった。是非とも本書を手にとって参照されたい。そして、友人や家族と互いの未来についておおいに語っていただきたい。

就職って、そんなにこわいものでもないんじゃないかな。

